

龍谷大学 履修要項
2025年度 文学部

🕒 最終更新日：2025年3月10日

2025年度入学生

文学部

2025年度入学生 文学部 メニュー

「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」

>

• 文学部の教育理念・目的 >

• 各学科・専攻の教育理念・目的 >

真宗学科 >

仏教学科 >

哲学科哲学専攻 >

哲学科教育学専攻 >

歴史学科日本史学専攻 >

歴史学科東洋史学専攻 >

歴史学科仏教史学専攻 >

歴史学科文化遺産学専攻 >

日本語日本文学科 >

英語英米文学科 >

• 文学部の卒業認定・学位授与の方針 [学士 (文学)] >

• 文学部の教育課程編成・実施の方針 >

文学部の教育目的および履修方法

>

• カリキュラム概念図 >

• 先修制 >

• 深草・大宮学舎間の連続受講について >

• グレイドナンバー制 >

• 科目ナンバリング >

文学部専攻科目の教育目的および履修方法

>

• 【1】カリキュラムマップ・必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧 >

【真宗学科カリキュラムマップ】 >

■真宗学科 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧 >

【仏教学科カリキュラムマップ】 >

■仏教学科 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧 >

【哲学科哲学専攻カリキュラムマップ】 >

■哲学科哲学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧 >

【哲学科教育学専攻カリキュラムマップ】 >

■哲学科教育学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧 >

【歴史学科日本史学専攻カリキュラムマップ】 >

■歴史学科日本史学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧 >

【歴史学科東洋史学専攻カリキュラムマップ】 >

■歴史学科東洋史学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧 >

【歴史学科仏教史学専攻カリキュラムマップ】 >

■歴史学科仏教史学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧 >

【歴史学科文化遺産学専攻カリキュラムマップ】 >

■歴史学科文化遺産学専攻 専攻科目 科目区分別 開設科目一覧 >

【日本語日本文学科カリキュラムマップ】 >

■日本語日本文学科 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧 >

【英語英米文学科カリキュラムマップ】 >

■英語英米文学科 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧 >

• 【2】選択専攻科目 開設科目一覧 >

- [【3】 随意科目 開設科目一覧 >](#)

各種留学・国際文化交流研修・海外研修について >

- [【1】 Ryukoku Intercultural Study Experience Program >](#)

[1\) 5-week >](#) [2\) Semester >](#)

- [【2】 交換留学・私費留学における単位認定 >](#)

[1\) 認定の上限および分野 >](#) [2\) 1単位の認定にあたっての学修時間の目安 >](#) [3\) 卒業年次に留学する場合の注意点 >](#)

[4\) 後期から留学する場合の通年開講の演習科目の取り扱い >](#)

- [【3】 国際文化交流研修 >](#)

[1\) 受講対象 >](#) [2\) 科目名等 >](#) [3\) 認定単位 >](#) [4\) 履修申込手続き >](#) [5\) 単位認定・成績評価 >](#)

- [【4】 海外研修 >](#)

[1\) 英語集中プログラム >](#) [2\) 台湾留学プログラム >](#)

ルーブリック・研究科について >

- [ルーブリック >](#)

[\(1\) 「ルーブリック」とは >](#) [\(2\) 文学部アカデミック・リテラシー・ルーブリック >](#) [\(3\) 卒業論文ルーブリック >](#)

- [大学院文学研究科・実践真宗学研究科 >](#)

[\(1\) 大学院 >](#) [\(2\) 入学試験 >](#) [\(3\) 文学部生の大学院文学研究科開講科目の早期履修制度 >](#)

文学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、人文学の知的体系の研究・教授を通じ、現代社会の複雑な変化や諸問題に、自己を見失うことなく積極的・主体的に対応しつつ、社会に貢献できる教養及び専門性を備えた人間を育成することを目的とする。

各学科・専攻の教育理念・目的

真宗学科

親鸞によって開顕された浄土真宗の教義を、浄土教理史・真宗教義学・真宗教学史・真宗伝道学の4分野にわたって探究し、広い視野に立って真宗教義の真理性を明らかにするとともに、現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

仏教学科

インド・中国・日本等の諸地域に及ぶ仏教の多様な展開を「仏教と文化」「仏教と現代」の2つの視座から学ぶことによって専門的知識の修得と論理的洞察力の涵養を図り、現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

哲学科哲学専攻

哲学の歴史を深く学び、他者との対話によってあらゆる物事の本質を考えるとともに、現代の諸科学や社会の動向をも吟味しつつ、哲学的・倫理的・宗教的諸問題の解決に寄与する、論理的洞察力に富んだ人間を育成することを目的とする。

哲学科教育学専攻

深い人間理解に基づいて、教育の本質・方法や社会・文化との関係、個人の発達・成長・学習などについての基本的な考え方・見識を養い、人間本来の生き方や発達のメカニズムなどを追究して、生涯学習社会における実践的課題に応えられる人間を育成することを目的とする。

歴史学科日本史学専攻

日本史の各時代・領域に関する教育・研究を通して、専門知識・技能を修得し、併せて批判的精神と確かな歴史認識をもった歴史的主体として、現代社会に貢献できる人間を育成することを目的とする。

歴史学科東洋史学専攻

中国をはじめ、アジア諸地域の歴史・文化・宗教・言語に関する専門的な知識と技能を修得し、明確な歴史認識をもち、広い視野に立ってアジア全体を深く洞察できる人間を育成することを目的とする。

歴史学科仏教史学専攻

歴史的な視点に立って、仏教が、それぞれの時代・地域の中でどのように受け入れられ展開してきたのかを考察することにより、歴史的主体として現代社会に貢献できる人間を育成することを目的とする。

歴史学科文化遺産学専攻

文化遺産の歴史的意義を考え、将来へと守り伝えるための方法と技法を習得し、地域の文化的媒体として活用できる人材を育成する。あわせて、文化財の調査・研究、その保存と活用を行うための専門教育を通して、仏教美術・寺院建築・仏教儀礼等に向き合い、「建学の精神」を体現した自主的判断能力を持つ感受性の豊かな専門家を育成する。

日本語日本文学科

日本語の正しい理解力、日本の言語文化に関する専門的読解力、論理的思考力、および表現力を修得し、「ことば」によって成り立つ社会の持続的発展に主体的に貢献できる人間を育成することを目的とする。

英語英米文学科

英国・米国をはじめとする英語圏に関する言語・文学・文化についての知識を修得し、広い視野に立って英語圏地域を深く洞察する能力を身に付け、国際化する現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

文学部の卒業認定・学位授与の方針針 [学士 (文学)]

文学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生に保証する基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方針を次に掲げる。

<文学部の学生に保証する基本的な資質・能力>

①：建学の精神の具現化	<ul style="list-style-type: none">建学の精神の意義について理解している。
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none">人間社会において「言葉 (ことば)」の持つ影響力について深く理解し、人文学の幅広い知識を身につけている。日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解を分かりやすく伝えるための方法を身につけている。外国語運用能力や豊かな教養を身につけている。
③：(④の基礎となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none">他者との相互理解を可能とするような対話能力を身につけている。自らが設定した課題について、探求、発見、追究、解決という一連のプロセスを達成する能力を多角的に身につけている。論理的思考力を培い、現代社会が問いかける問題に対して、多角的に思考・判断することができる。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度 (「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	<ul style="list-style-type: none">多様な価値観を認め、言葉 (ことば) の学修をはじめとした学びを通じて自己の認識を広げ、異なる価値観を受容することができる。他者との交流や異なる価値観の受容を通じて、自己を客観視し、他者と協働することができる。社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。

<学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法>

- 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
- 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。
- 卒業年次には、「卒業論文」を提出しなければならない。卒業論文提出後に口述試問を実施し、複数の教員によって厳格な評価を行う。

文学部の教育課程編成・実施の方針

文学部では、卒業時に「教育理念・目的」や、「卒業認定・学位授与の方針」に明示した「学生に保証する基本的な資質・能力」を確実に身につけられるように確かなカリキュラムを編成している。具体的には以下の方針に基づく

<文学部の教育内容>

①：建学の精神の具現化	<ul style="list-style-type: none">建学の精神の意義について理解するために、1年次配当 (第1・第2セメスター配当) の「仏教の思想」科目 (「仏教の思想A」・「仏教の思想B」) を全学必修科目として開講する。
-------------	---

<p>②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当(第1・第2セメスター配当)の言語科目(英語および英語以外の複数の外国語科目)を開講する。 • 諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当(第1・第2セメスター配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等)を開講する。 • 人文学に関する知識・技能を身につけるために「普通講義」を開講する。 • 大学での学びの基本的な方法や、日本語の文章作成のための能力を育成するために「基礎演習」(1・2年次)を配置する。 • 学生が自主的に設定した学修テーマを追究し、問題解決へと至る知識と技能を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。 • 文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。
<p>③：(④の基礎となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の言語科目(英語および英語以外の複数の外国語科目)を開講する。 • 幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等)を開講する。 • 学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表やレポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。また、これらの活動を通じて思考力・判断力・表現力を伸張するために「卒業論文」を必修とする。 • 批判的能力やものごとの本質を見極める力を養成するために「基礎演習」「演習」科目を全学年で設置し、「普通講義」等で学んだ知識を現実の社会で活用できる能力を養成する。 • 人文学の専門領域の研究を通じて見いだされた知見をもとに思考力・判断力・表現力を高めるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。
<p>④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学生同士がディスカッションを行う中で、知識を構成していけるように、4年間を通じて開講される「基礎演習」「演習」では少人数のクラス編成を行い、TA、学修支援員のサポートによって学生同士が共に学ぶことの意味を探究させられるようにする。 • 学科専攻の枠を超えた科目履修によって人文学の多様な専門領域を学ぶ学生が共に学べるように選択科目を設定する。 • 社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開講する。

<教育方法>

- 学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期(配当セメスター)を考慮しながら系統的に履修できるような科目(講義・演習・講読・実技・実験・実習等)を開設する。
- 全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

<学修成果の評価>

- 学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数を合わせて評価を行う。
 - ① 筆答試験による評価
 - ② レポート試験による評価
 - ③ 実技試験による評価
 - ④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
- 卒業論文の評価は、論文評価と口述試問評価によって行う。

真宗学科 教理史コース 教学史コース 教義学コース 伝道学コース	仏教学科 仏教と文化コース 仏教と現代コース	哲学科 哲学専攻	哲学科 教育学専攻	歴史学科 日本史学専攻	歴史学科 東洋史学専攻	歴史学科 仏教史学専攻	歴史学科 文化遺産学専攻	日本語 日本文学科 古典文学コース 近代文学コース 情報出版学コース 日本語学コース	英語 英米文学科 英文学コース 米文学コース 英語学コース 英米文化コース
必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 48単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 48単位	必修専攻科目 52単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位

選択専攻科目24単位以上(哲学科哲学専攻・歴史学科仏教史学専攻は20単位以上、歴史学科文化遺産学専攻は16単位以上)
 選択専攻科目として設けられた科目。
 「44単位(哲学科哲学専攻・歴史学科仏教史学専攻は48単位、歴史学科文化遺産学専攻は52単位)を超えて履修する必修専攻科目。
 他学科・専攻の必修専攻科目(「基礎演習」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒業論文」「1年次または2年次のみ講読」、英語英米文学科開設科目の「English Listening A・B」「English Academic Writing IA・IB」を除く)。

フリーゾーン (20単位)

選択専攻科目と教養教育科目(教養科目・言語科目・「仏教の思想」科目)から選択してください。

【教養教育科目】

教養科目：人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目の各分野から1科目(2単位)以上を修得し、合計20単位以上修得。
(人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目・スポーツ科学系科目)

言語科目：必修外国語科目(英語・初修外国語) (12単位) / 選択外国語科目

「仏教の思想」科目(必修：4単位)：仏教の思想A(2単位) 仏教の思想B(2単位) / 選択科目「歎異抄の思想A・B」

諸課程

- 教職課程
- 学校図書館司書教諭課程
- 図書館司書課程
- 本願寺派教師資格課程
- 博物館学芸員課程
- 社会福祉主事課程
- 本願寺派学階課程
- 特別研修講座

真宗学科 合計 124単位	仏教学科 合計 124単位	哲学科 哲学専攻 合計 124単位	哲学科 教育学専攻 合計 124単位	歴史学科 日本史学専攻 合計 124単位	歴史学科 東洋史学専攻 合計 124単位	歴史学科 仏教史学専攻 合計 124単位	歴史学科 文化遺産学専攻 合計 124単位	日本語 日本文学科 合計 124単位	英語 英米文学科 合計 124単位
---------------------	---------------------	----------------------------	-----------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------	----------------------------

先修制

先修制とは、ある科目を履修する場合に、履修の要件として指定された科目及び単位数の修得を必要とする制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

したがって、先修制が設定されている科目とその履修の要件として指定された科目を同一学期に履修することはできません。

先修制が設定されている科目は次のとおりです。

<学部専攻科目>

授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
サンスクリット語仏典入門A2	サンスクリット語仏典入門A1
サンスクリット語仏典入門B2	サンスクリット語仏典入門B1
チベット語仏典入門A2	チベット語仏典入門A1
チベット語仏典入門B2	チベット語仏典入門B1
パーリ語仏典入門B	パーリ語仏典入門A
教育心理学	人間科学概論
認知心理学	人間科学概論
学習心理学	人間科学概論
日本史学演習Ⅰ【歴史学科日本史学専攻】	日本史学基礎演習ⅠA,ⅠB,ⅡA,ⅡBの合計8単位のうち、4単位以上修得
日本史学演習Ⅱ【歴史学科日本史学専攻】 卒業論文【歴史学科日本史学専攻】	日本史学基礎演習ⅠA,ⅠB,ⅡA,ⅡBの合計8単位
日本語教育実習A,B	日本語教育概論A・日本語教育概論Bのうちいずれか2単位

深草・大宮学舎間の連続受講について

原則として、深草学舎と大宮学舎間の連続受講は認められません。ただし、次の場合に限り、連続受講が認められます。

- (a) 2講時と3講時の学舎間連続受講（昼休みを含み移動時間が確保されているため）
- (b) 演習科目・卒業要件である必修科目・資格取得に関わる必修科目の受講（選択必修科目は除きます）
- (c) (b) にかかわらず残りの卒業要件単位からみて選択必修が事実上必修となる科目の受講
- (d) その他、文学部教授会において必要であると認められた科目の受講

連続受講となる科目のうち、1つの時間帯の科目（例：3講時・深草、4講時・大宮の場合における、4講時・大宮開講科目）の履修機会が次年度にある場合は、上記の条件であっても大宮・深草学舎間連続受講を許可しません。卒年次生以外は、次年度に履修機会があるので、原則として次年度登録をすることとします。

グレイドナンバー制

文学部で開設される授業科目には、グレイドナンバーが付されています。これは、科目のレベルを簡明に表示したものです。学修計画の設計にあたって、これを参考にしてください。

基礎 —————→ 応用

グレイド	100	200	300	400	500
------	-----	-----	-----	-----	-----

科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。詳細は、ポータルサイトを確認してください。

文学部専攻科目の教育目的および履修方法

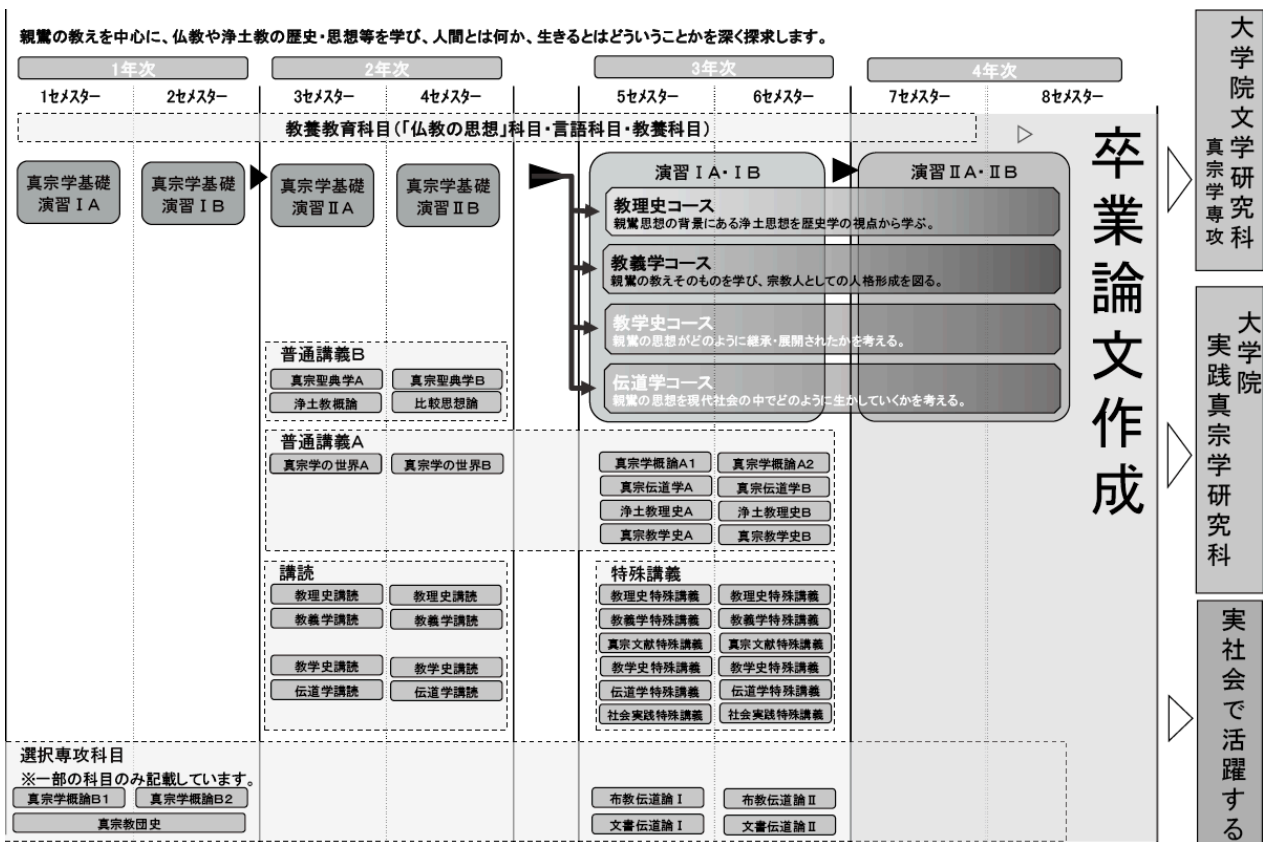
【1】カリキュラムマップ・必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧

学科・専攻の教育理念・目的に基づき、専攻科目を開設しています。前ページ記載の「カリキュラム概念図」でも示しているとおり、所属学科・専攻以外の専攻科目（履修できない科目もあります。詳細はこの項目の各学科・専攻の履修上の注意点を参照してください。）も履修できるため、計画的な履修計画を立てる必要があります。

各学科・専攻の開設科目とともにカリキュラムマップも掲載していますので参考にしてください。

☆年度により、開講されない科目があります。開設科目一覧に掲載されていても、時間割表に掲載されていない場合は、その年度は不開講です。また、科目の開講期も変更となる場合があります。時間割表をよく確認してください。

【真宗学科カリキュラムマップ】



■真宗学科 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧

▼真宗学科の教育理念・目的

親鸞によって開顕された浄土真宗の教義を、浄土教理史・真宗教義学・真宗教学史・真宗伝道学の4分野にわたって探究し、広い視野に立って真宗教義の真理性を明らかにするとともに、現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

《履修上の注意点》

■「普通講義A」において、規定の単位を超えて履修した単位は、「選択専攻科目」となります。選択する科目グループに関しては、基本的に所属する演習分野と同一の科目を履修してください。

- ・教理史演習 → 浄土教理史A/B
- ・教学史演習 → 真宗教学史A/B
- ・伝道学演習 → 真宗伝道学A/B

※教養学演習は特に履修パターンはないため、①~③の科目グループから選択してください。

■「普通講義B」「特殊講義」「講読」において4単位を超えて修得した単位は「選択専攻科目」となります。

■「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返し履修登録することができます。例えば、「講読A1」を修得した次年度に「講読A1」を再度履修登録することができます。

■卒業論文（4単位）は、演習II A及び演習II Bを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

※ [グレイドナンバー] 科目名 (単位数) 【開講キャンパス】を表しています。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次		3年次		4年次		履修規定
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester	第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
普通講義	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を修得して人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 真宗学の世界A(2)【講義】 [300] 真宗学の世界B(2)【講義】		[400] 真宗学概論A(2)【大講】 [400] 真宗学概論B(2)【大講】 以下の①②③の科目グループから2科目4単位を履修				「真宗学の世界A/B」「真宗学概論A1-A2」4科目単位を履修すること
普通講義				[300] 真宗聖典学A(2)【大講】 [300] 真宗聖典学B(2)【大講】 [300] 浄土教概論(2)【大講】 [300] 比較思想論(2)【大講】		① [400] 浄土教理史A(2)【大講】 [400] 浄土教理史B(2)【大講】 ② [400] 真宗教学史A(2)【大講】 [400] 真宗教学史B(2)【大講】 ③ [400] 真宗伝道学A(2)【大講】 [400] 真宗伝道学B(2)【大講】				2科目4単位選択必修
特殊講義	1~2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。					[400] 専理史特殊講義A(2)【大講】 [400] 専理史特殊講義B(2)【大講】 [400] 教義学特殊講義A(2)【大講】 [400] 教義学特殊講義B(2)【大講】 [400] 教義学特殊講義C(2)【大講】 [400] 教義学特殊講義D(2)【大講】 [400] 真宗文化特殊講義A(2)【大講】 [400] 真宗文化特殊講義B(2)【大講】 [400] 真宗文化特殊講義C(2)【大講】 [400] 真宗文化特殊講義D(2)【大講】 [400] 伝道学特殊講義A(2)【大講】 [400] 伝道学特殊講義B(2)【大講】 [400] 伝道学特殊講義C(2)【大講】 [400] 伝道学特殊講義D(2)【大講】 [400] 社会実践特殊講義A(2)【大講】 [400] 社会実践特殊講義B(2)【大講】				2科目4単位選択必修
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な知識を修得する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 教理史講読A(2)【講義】 [300] 教理史講読B(2)【講義】 [300] 教理史講読C(2)【大講】 [300] 教理史講読D(2)【大講】 [300] 教理史講読E(2)【大講】 [300] 教理史講読F(2)【大講】 [300] 教義学講読A(2)【講義】 [300] 教義学講読B(2)【講義】 [300] 教義学講読C(2)【大講】 [300] 教義学講読D(2)【大講】 [300] 教義学講読E(2)【大講】 [300] 教義学講読F(2)【大講】 [300] 教学史講読A(2)【講義】 [300] 教学史講読B(2)【講義】 [300] 教学史講読C(2)【大講】 [300] 教学史講読D(2)【大講】 [300] 伝道学講読A(2)【講義】 [300] 伝道学講読B(2)【講義】 [300] 伝道学講読C(2)【大講】 [300] 伝道学講読D(2)【大講】 [300] 伝道学講読E(2)【大講】 [300] 伝道学講読F(2)【大講】						2科目4単位選択必修
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「話すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学習能力を養成するために、「基礎演習」(1~2年次)を開講する。	[100] 真宗学基礎演習 I A(2)【講義】 [200] 真宗学基礎演習 I B(2)【講義】		[300] 真宗学基礎演習 II A(2)【講義】 [300] 真宗学基礎演習 II B(2)【講義】						4科目8単位必修
演習 I	学生が自主的に設定した学修テーマに基づき発表とディスカッションレポート作成等を通じて、課題を達成し、解決への実行能力を養成するために、「演習 I」(3年次)および「演習 II」(4年次)を開講する。					[400] 教理史演習 I A(2)【大講】 [400] 教理史演習 I B(2)【大講】 [400] 教義学演習 I A(2)【大講】 [400] 教義学演習 I B(2)【大講】 [400] 教学史演習 I A(2)【大講】 [400] 教学史演習 I B(2)【大講】 [400] 伝道学演習 I A(2)【大講】 [400] 伝道学演習 I B(2)【大講】				2科目4単位選択必修。同一分野(教理史、教義学、教学史、伝道学)で I A・I B を履修すること。
演習 II 卒業論文								[500] 卒業論文(4)【大講】		卒業論文4単位及び、同一分野の演習 II A・II B(教理史、教義学、教学史、伝道学)の4単位、合計8単位必修。

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

【仏教学科カリキュラムマップ】

2500年の時を超え世界に広まった仏教を、思想面から追究するとともに、本物の資料をとおしてさらに理解を深めます。

1年次		2年次		3年次		4年次	
1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター
教養教育科目(「仏教の思想」科目・言語科目・教養科目)							
仏教学基礎演習A	仏教学基礎演習B	仏教学基礎演習C・D		演習ⅠA・ⅠB		演習ⅡA・ⅡB	
		普通講義A		仏教と文化コース 各地域の仏教と文化を広く深く学ぶ。		卒業論文作成	
		普通講義B		仏教と現代コース 仏教と現代の社会課題を広く深く学ぶ。			
		講読		特殊講義		大学院 仏教学専攻	
		選択専攻科目		実社会で活躍する			
※一部の科目のみ 記載しています。							
仏教美術入門A	仏教美術入門B	仏教学概論B1	仏教学概論B2	仏教と異思想A	仏教と異思想B		
		サンスクリット語 仏典入門B1	サンスクリット語 仏典入門B2	インドの仏教と文化A	インドの仏教と文化B		
仏教文化入門	現代仏教入門	チベット語仏典入門B1	チベット語仏典入門B2	仏典情報研究論A	仏典情報研究論B		
サンスクリット語 仏典入門A1	サンスクリット語 仏典入門A2	パーリ語仏典入門A	パーリ語仏典入門B	現代アジアの 仏教と社会A	現代アジアの 仏教と社会B		
チベット語仏典入門A1	チベット語仏典入門A2	古部の仏教	仏教と日本の世界B	仏教と日本の文化A			
		世界の仏教	仏教と人生の課題	仏教と日本の文化C	仏教と日本の文化B・D		
		宗教史A	宗教史B				

■仏教学科 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧

▼仏教学科の教育理念・目的

インド・中国・日本等の諸地域に及ぶ仏教の多様な展開を「仏教と文化」「仏教と現代」の2つの視座から学ぶことによって専門的知識の修得と論理的洞察力の涵養を図り、現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

《履修上の注意点》

- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において4単位を超えて修得した単位は「選択専攻科目」となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読A1」を修得した次年度に「講読A1」を再度履修登録することができます。
- 仏教学基礎演習C・Dはクラスにより履修登録を行う順番が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。
- 卒業論文(4単位)は、仏教学演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

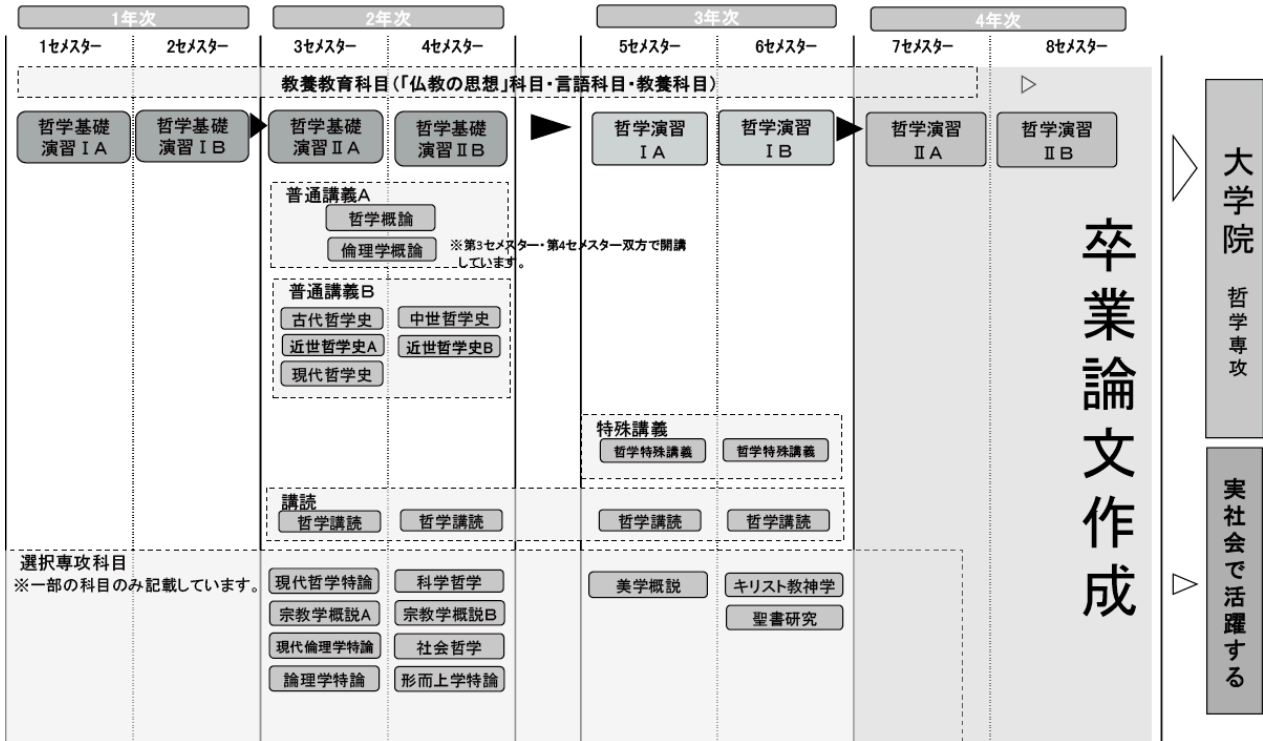
※ [グレイドナンバー] 科目名 (単位数) 【開講キャンパス】を表しています。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次		3年次		4年次		履修規定
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester	第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
普通講義	○各学科・専攻の学びを深めるための基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、基礎・概論等を行う「普通講義」科目を履修する。			[300] 仏教哲学概論A① [2] [大専]	[300] 仏教哲学概論A② [2] [大専]	[400] イノダ哲学概論A① [2] [大専]	[400] イノダ哲学概論B① [2] [大専]			4科目8単位必修
普通講義	○各学科・専攻の専門領域の基礎的知識・思考を深めるための基礎・概論等を行う「普通講義」科目を履修する。			[300] イノダ哲学概論A① [2] [大専]	[300] イノダ哲学概論A② [2] [大専]	[400] 仏教文化学概論A① [2] [大専]	[400] 仏教文化学概論B① [2] [大専]			2科目4単位選択必修
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえ、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。					[400] 中国仏教哲学史① [2] [大専]	[400] 中国仏教哲学史② [2] [大専]	[400] 仏教哲学特講義A① [2] [大専]	[400] 仏教哲学特講義A② [2] [大専]	2科目4単位選択必修
講義	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文脈を踏解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講義」科目を2年次以降に開講する。	[100] 仏教漢文入門① [2] [大専]	[200] 仏教漢文入門② [2] [大専]	[300] 仏教哲学講義A① [2] [大専]	[300] 仏教哲学講義A② [2] [大専]	[400] 仏教哲学講義E① [2] [大専]	[400] 仏教哲学講義E② [2] [大専]			「仏教漢文入門A」「仏教漢文入門B」4単位と講義科目の中から4単位選択必修の合計8単位必修。
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「話すこと」「発表すること」など、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[100] 仏教哲学基礎演習A① [2] [大専]	[200] 仏教哲学基礎演習B① [2] [大専]							4科目8単位必修
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通して、課題を達成し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。			[300] 仏教哲学基礎演習C① [2] [大専]	[300] 仏教哲学基礎演習C② [2] [大専]					2科目4単位必修
演習Ⅱ卒業論文								[500] 卒業論文 (4) [大専]		3科目8単位必修

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

【哲学科哲学専攻カリキュラムマップ】

あらゆる偏見・独断・権威を捨てて思想のライブに身を没し、知の迷宮をさまよいながら、論理的思考力と表現力を身につけます。



■哲学科哲学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧

▼哲学科哲学専攻の教育理念・目的

哲学の歴史を深く学び、他者との対話によってあらゆる物事の本質を考えるとともに、現代の諸科学や社会の動向をも吟味しつつ、哲学的・倫理的・宗教的諸問題の解決に寄与する、論理的洞察力に富んだ人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

《履修上の注意点》

- 「普通講義A」「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は「選択専攻科目」となります。

■「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返し履修登録することができます。例えば、「講読A1」を修得した次年度に「講読A1」を再度履修登録することができます。

■卒業論文（4単位）は、演習ⅡA及び演習ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

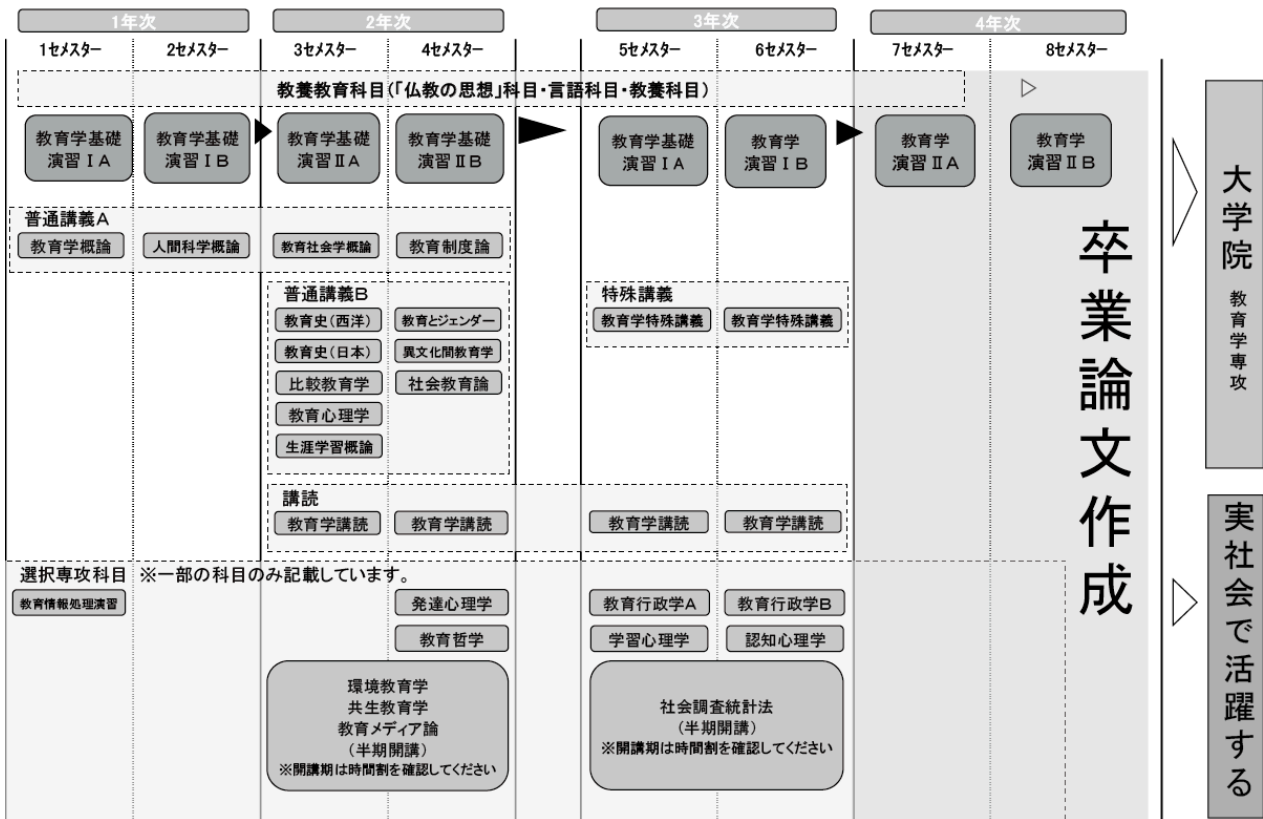
※ [グレイドナンバー] 科目名 (単位数) 【開講キャンパス】を表しています。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次		3年次		4年次		履修規定
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するための、概説・概論等を行う「普通講義」科目を履修する。			[300] 哲学概論 (2)【大宮】 ※上記2科目は、第3セメスター・第4セメスターとも開講します。	[300] 倫理学概論 (2)【大宮】					2科目4単位必修
普通講義B	○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するための、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 古代哲学史(2)【大宮】 [300] 中世哲学史 (2)【大宮】 [300] 近世哲学史A(2)【大宮】 [300] 近世哲学史B(2)【大宮】 [400] 現代哲学史 (2)【大宮】 ※年度によって開講科目の変更あり						4科目8単位選択必修
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。					[600] 哲学特殊講義(A)A (2)【大宮】 [600] 哲学特殊講義(A)B (2)【大宮】 [600] 哲学特殊講義(B)A (2)【大宮】 [600] 哲学特殊講義(B)B (2)【大宮】 [600] 哲学特殊講義(C)A (2)【大宮】 [600] 哲学特殊講義(C)B (2)【大宮】 [600] 哲学特殊講義(D)A (2)【大宮】 [600] 哲学特殊講義(D)B (2)【大宮】				3科目6単位選択必修
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な知識を修得する能力の養成をはかり、それによって人文系の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 哲学講読G1(2)【深草】 [300] 哲学講読G2(2)【深草】 (2年次のみ) [300] 哲学講読H1(2)【深草】 [300] 哲学講読H2(2)【深草】 (2年次のみ) [300] 哲学講読I1(2)【深草】 [300] 哲学講読I2(2)【深草】 (2年次のみ)	[400] 哲学講読G1 (2)【大宮】 [400] 哲学講読G2 (2)【大宮】 (2年次のみ) [400] 哲学講読H1 (2)【大宮】 [400] 哲学講読H2 (2)【大宮】 (2年次のみ) [400] 哲学講読I1 (2)【大宮】 [400] 哲学講読I2 (2)【大宮】 (2年次のみ)					5科目10単位選択必修。 専攻指定(3年次のみ)4単位専攻以上で3年次以上履修済みの講読科目の履修が必須だが、専攻指定(4年次のみ)の講読は必修でなかった場合は、専攻指定(3年次のみ)の履修済みの講読科目を履修し、履修済みの講読科目は履修済みの講読科目として履修する。履修済みの講読科目は履修済みの講読科目として履修する。履修済みの講読科目は履修済みの講読科目として履修する。
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的な修得力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[100] 哲学基礎演習ⅠA (2)【深草】 [100] 哲学基礎演習ⅠB (2)【深草】	[100] 哲学基礎演習ⅡA (2)【深草】 [100] 哲学基礎演習ⅡB (2)【深草】							4科目8単位必修
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づき教養とディスカッション・レポート作成等を通じて、問題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。					[400] 哲学演習ⅠA (2)【大宮】 [400] 哲学演習ⅠB (2)【大宮】				2科目4単位必修
演習Ⅱ 卒業論文								[500] 卒業論文 (4)【大宮】		3科目8単位必修

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

【哲学科教育学専攻カリキュラムマップ】

教育のあり方や教育と社会・文化の関係、心理学などについて、これまでの知見を重んじつつ時代に応じた見識と実践力を養います。



■哲学科教育学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧

▼哲学科教育学専攻の教育理念・目的

深い人間理解に基づいて、教育の本質・方法や社会・文化との関係、個人の発達・成長・学習などについての基本的な考え方・見識を

養い、人間本来の生き方や発達のメカニズムなどを追究して、生涯学習社会における実践的課題に応えられる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

《履修上の注意点》

- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は「選択専攻科目」となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返し履修登録することができます。例えば、「講読A1」を修得した次年度に「講読A1」を再度履修登録することができます。
- 卒業論文（4単位）は、演習II A及び演習II Bを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。
- 「教育学講読」は同一セメスターにおける登録の上限は2単位までとします。

※【グレイドナンバー】科目名（単位数）【開講キャンパス】を表しています。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次		3年次		4年次		履修規定
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基幹的・全学的な必修科目として、基礎・総論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識、思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概論・総論等を行う「普通講義」科目を開講する。	[100] 教育学概論(2)【京大】	[100] 人間科学概論(2)【京大】	[200] 教育社会学概論(2)【京大】	[300] 教育制度論(2)【京大】					4科目8単位必修
普通講義B				[300] 教育史(西洋)(2)【大宮】	[300] 教育史(日本)(2)【大宮】	[300] 教育社会学(2)【大宮】				4科目8単位選択必修
普通講義C				[300] 教育史(西洋)(2)【大宮】	[300] 教育史(日本)(2)【大宮】	[300] 教育社会学(2)【大宮】				■「教育心理学」の受講にあたっては、「人間科学概論」の単位を修得していない場合は履修することができません。
普通講義D				[200] 教育心理学(2)【大宮】	[300] 社会教育論(2)【大宮】					
普通講義E				[300] 生涯学習概論(2)【大宮】						
普通講義F						[500] 教育学特講義(A)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(A)B(2)【大宮】			
普通講義G						[500] 教育学特講義(B)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(B)B(2)【大宮】			
普通講義H						[500] 教育学特講義(C)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(C)B(2)【大宮】			
普通講義I						[500] 教育学特講義(D)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(D)B(2)【大宮】			
普通講義J						[500] 教育学特講義(E)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(E)B(2)【大宮】			
普通講義K						[500] 教育学特講義(F)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(F)B(2)【大宮】			
普通講義L						[500] 教育学特講義(G)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(G)B(2)【大宮】			
普通講義M						[500] 教育学特講義(H)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(H)B(2)【大宮】			
普通講義N						[500] 教育学特講義(I)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(I)B(2)【大宮】			
普通講義O						[500] 教育学特講義(J)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(J)B(2)【大宮】			
普通講義P						[500] 教育学特講義(K)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(K)B(2)【大宮】			
普通講義Q						[500] 教育学特講義(L)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(L)B(2)【大宮】			
普通講義R						[500] 教育学特講義(M)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(M)B(2)【大宮】			
普通講義S						[500] 教育学特講義(N)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(N)B(2)【大宮】			
普通講義T						[500] 教育学特講義(O)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(O)B(2)【大宮】			
普通講義U						[500] 教育学特講義(P)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(P)B(2)【大宮】			
普通講義V						[500] 教育学特講義(Q)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(Q)B(2)【大宮】			
普通講義W						[500] 教育学特講義(R)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(R)B(2)【大宮】			
普通講義X						[500] 教育学特講義(S)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(S)B(2)【大宮】			
普通講義Y						[500] 教育学特講義(T)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(T)B(2)【大宮】			
普通講義Z						[500] 教育学特講義(U)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(U)B(2)【大宮】			
普通講義AA						[500] 教育学特講義(V)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(V)B(2)【大宮】			
普通講義AB						[500] 教育学特講義(W)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(W)B(2)【大宮】			
普通講義AC						[500] 教育学特講義(X)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(X)B(2)【大宮】			
普通講義AD						[500] 教育学特講義(Y)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(Y)B(2)【大宮】			
普通講義AE						[500] 教育学特講義(Z)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(Z)B(2)【大宮】			
普通講義AF						[500] 教育学特講義(AA)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AA)B(2)【大宮】			
普通講義AG						[500] 教育学特講義(AB)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AB)B(2)【大宮】			
普通講義AH						[500] 教育学特講義(AC)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AC)B(2)【大宮】			
普通講義AI						[500] 教育学特講義(AD)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AD)B(2)【大宮】			
普通講義AJ						[500] 教育学特講義(AE)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AE)B(2)【大宮】			
普通講義AK						[500] 教育学特講義(AF)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AF)B(2)【大宮】			
普通講義AL						[500] 教育学特講義(AG)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AG)B(2)【大宮】			
普通講義AM						[500] 教育学特講義(AH)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AH)B(2)【大宮】			
普通講義AN						[500] 教育学特講義(AI)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AI)B(2)【大宮】			
普通講義AO						[500] 教育学特講義(AJ)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AJ)B(2)【大宮】			
普通講義AP						[500] 教育学特講義(AK)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AK)B(2)【大宮】			
普通講義AQ						[500] 教育学特講義(AL)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AL)B(2)【大宮】			
普通講義AR						[500] 教育学特講義(AM)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AM)B(2)【大宮】			
普通講義AS						[500] 教育学特講義(AN)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AN)B(2)【大宮】			
普通講義AT						[500] 教育学特講義(AO)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AO)B(2)【大宮】			
普通講義AU						[500] 教育学特講義(AP)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AP)B(2)【大宮】			
普通講義AV						[500] 教育学特講義(AQ)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AQ)B(2)【大宮】			
普通講義AW						[500] 教育学特講義(AR)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AR)B(2)【大宮】			
普通講義AX						[500] 教育学特講義(AS)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AS)B(2)【大宮】			
普通講義AY						[500] 教育学特講義(AT)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AT)B(2)【大宮】			
普通講義AZ						[500] 教育学特講義(AU)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AU)B(2)【大宮】			
普通講義BA						[500] 教育学特講義(AV)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AV)B(2)【大宮】			
普通講義BB						[500] 教育学特講義(AW)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AW)B(2)【大宮】			
普通講義BC						[500] 教育学特講義(AX)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AX)B(2)【大宮】			
普通講義BD						[500] 教育学特講義(AY)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AY)B(2)【大宮】			
普通講義BE						[500] 教育学特講義(AZ)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(AZ)B(2)【大宮】			
普通講義BF						[500] 教育学特講義(BA)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BA)B(2)【大宮】			
普通講義BG						[500] 教育学特講義(BB)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BB)B(2)【大宮】			
普通講義BH						[500] 教育学特講義(BC)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BC)B(2)【大宮】			
普通講義BI						[500] 教育学特講義(BD)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BD)B(2)【大宮】			
普通講義BJ						[500] 教育学特講義(BE)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BE)B(2)【大宮】			
普通講義BK						[500] 教育学特講義(BF)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BF)B(2)【大宮】			
普通講義BL						[500] 教育学特講義(BG)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BG)B(2)【大宮】			
普通講義BM						[500] 教育学特講義(BH)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BH)B(2)【大宮】			
普通講義BN						[500] 教育学特講義(BI)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BI)B(2)【大宮】			
普通講義BO						[500] 教育学特講義(BJ)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BJ)B(2)【大宮】			
普通講義BP						[500] 教育学特講義(BK)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BK)B(2)【大宮】			
普通講義BQ						[500] 教育学特講義(BL)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BL)B(2)【大宮】			
普通講義BR						[500] 教育学特講義(BM)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BM)B(2)【大宮】			
普通講義BS						[500] 教育学特講義(BN)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BN)B(2)【大宮】			
普通講義BT						[500] 教育学特講義(BO)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BO)B(2)【大宮】			
普通講義BU						[500] 教育学特講義(BP)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BP)B(2)【大宮】			
普通講義BV						[500] 教育学特講義(BQ)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BQ)B(2)【大宮】			
普通講義BW						[500] 教育学特講義(BR)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BR)B(2)【大宮】			
普通講義BX						[500] 教育学特講義(BS)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BS)B(2)【大宮】			
普通講義BY						[500] 教育学特講義(BT)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BT)B(2)【大宮】			
普通講義BZ						[500] 教育学特講義(BU)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BU)B(2)【大宮】			
普通講義CA						[500] 教育学特講義(BV)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BV)B(2)【大宮】			
普通講義CB						[500] 教育学特講義(BW)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BW)B(2)【大宮】			
普通講義CC						[500] 教育学特講義(BX)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BX)B(2)【大宮】			
普通講義CD						[500] 教育学特講義(BY)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BY)B(2)【大宮】			
普通講義CE						[500] 教育学特講義(BZ)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(BZ)B(2)【大宮】			
普通講義CF						[500] 教育学特講義(CA)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CA)B(2)【大宮】			
普通講義CG						[500] 教育学特講義(CB)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CB)B(2)【大宮】			
普通講義CH						[500] 教育学特講義(CC)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CC)B(2)【大宮】			
普通講義CI						[500] 教育学特講義(CD)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CD)B(2)【大宮】			
普通講義CJ						[500] 教育学特講義(CE)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CE)B(2)【大宮】			
普通講義CK						[500] 教育学特講義(CF)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CF)B(2)【大宮】			
普通講義CL						[500] 教育学特講義(CG)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CG)B(2)【大宮】			
普通講義CM						[500] 教育学特講義(CH)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CH)B(2)【大宮】			
普通講義CN						[500] 教育学特講義(CI)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CI)B(2)【大宮】			
普通講義CO						[500] 教育学特講義(CJ)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CJ)B(2)【大宮】			
普通講義CP						[500] 教育学特講義(CK)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CK)B(2)【大宮】			
普通講義CQ						[500] 教育学特講義(CL)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CL)B(2)【大宮】			
普通講義CR						[500] 教育学特講義(CM)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CM)B(2)【大宮】			
普通講義CS						[500] 教育学特講義(CN)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CN)B(2)【大宮】			
普通講義CT						[500] 教育学特講義(CO)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CO)B(2)【大宮】			
普通講義CU						[500] 教育学特講義(CP)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CP)B(2)【大宮】			
普通講義CV						[500] 教育学特講義(CQ)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CQ)B(2)【大宮】			
普通講義CW						[500] 教育学特講義(CR)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CR)B(2)【大宮】			
普通講義CX						[500] 教育学特講義(CS)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CS)B(2)【大宮】			
普通講義CY						[500] 教育学特講義(CT)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CT)B(2)【大宮】			
普通講義CZ						[500] 教育学特講義(CU)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CU)B(2)【大宮】			
普通講義DA						[500] 教育学特講義(CV)A(2)【大宮】	[500] 教育学特講義(CV)B(2)【大宮】			
普通講義DB										

通説に疑問を持ち、独自の見方・考え方で歴史的事実を解明し、現代社会の問題感や自分の生き方を明らかにします。

1年次		2年次		3年次		4年次																															
1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester	5 Semester	6 Semester	7 Semester	8 Semester																														
教養教育科目(「仏教の思想」科目・言語科目・教養科目)																																					
日本史学基礎演習ⅠA・ⅠB 注1		日本史学基礎演習ⅡA・ⅡB		日本史学演習Ⅰ 注2		日本史学演習Ⅱ(卒業論文) 注3																															
注1 日本史学基礎演習は下のように配当する。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">1年次(金・1講時)</th> <th colspan="2">2年次(火・1講時)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>ⅠA</th> <th>ⅠB</th> <th>ⅡA</th> <th>ⅡB</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(ア)クラス</td> <td>古代</td> <td>中世</td> <td>近世</td> <td>近現代</td> </tr> <tr> <td>(イ)クラス</td> <td>中世</td> <td>近世</td> <td>近現代</td> <td>古代</td> </tr> <tr> <td>(ウ)クラス</td> <td>近世</td> <td>近現代</td> <td>古代</td> <td>中世</td> </tr> <tr> <td>(エ)クラス</td> <td>近現代</td> <td>古代</td> <td>中世</td> <td>近世</td> </tr> </tbody> </table>			1年次(金・1講時)		2年次(火・1講時)			ⅠA	ⅠB	ⅡA	ⅡB	(ア)クラス	古代	中世	近世	近現代	(イ)クラス	中世	近世	近現代	古代	(ウ)クラス	近世	近現代	古代	中世	(エ)クラス	近現代	古代	中世	近世	講読 日本史学講読 日本史学講読		日本史学講読 日本史学講読			
	1年次(金・1講時)		2年次(火・1講時)																																		
	ⅠA	ⅠB	ⅡA	ⅡB																																	
(ア)クラス	古代	中世	近世	近現代																																	
(イ)クラス	中世	近世	近現代	古代																																	
(ウ)クラス	近世	近現代	古代	中世																																	
(エ)クラス	近現代	古代	中世	近世																																	
		普通講義 日本史概説ⅠA 日本史概説ⅠB 日本史概説ⅡA 日本史概説ⅡB		特殊講義 日本史学特殊講義 日本史学特殊講義																																	
				史学概論A~E A(日本史)・B(東洋史)・C(仏教史) D(文化遺産)・E(西洋史)																																	
注2 日本史学基礎演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡBの内、4単位以上を修得していなければ、日本史学演習Ⅰ(3年次ゼミ)を登録できない。 注3 日本史学基礎演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡBの8単位を修得していなければ、日本史学演習Ⅱ(4年次ゼミ)を登録できない。																																					
選択専攻科目 ※一部の科目のみ記載しています。																																					
考古学(日本)A 考古学(日本)B 古文書学入門A 古文書学入門B		美術史(日本)A 美術史(日本)B 日本文化史Ⅰ 日本文化史Ⅱ 日本宗教史A 日本宗教史B		民俗学(日本)A 民俗学(日本)B 史科学(日本)A 史科学(日本)B 古文書学A 古文書学B 社会事業史																																	

大学院 日本史学専攻 実社会で活躍する

卒業論文作成

■歴史学科日本史学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧

▼歴史学科日本史学専攻の教育理念・目的

日本史の各時代・領域に関する教育・研究を通して、専門知識・技能を修得し、併せて批判的精神と確かな歴史認識をもった歴史的主体として、現代社会に貢献できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

《履修上の注意点》

- 「普通講義」のうち「史学概論A~E」を、2科目4単位を超えて修得した単位、または「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は、「選択専攻科目」となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読A1」を修得した次年度に「講読A1」を再度履修登録することができます。
- 「日本史学演習Ⅰ」「日本史学演習Ⅱ」「卒業論文」の先修要件について
 - ①「日本史学演習Ⅰ」の履修については、前年次までに「日本史学基礎演習ⅠA~ⅡB」の中から4単位以上を修得していること。
 - ②「卒業論文」「日本史学演習Ⅱ」の履修については、前年次までに「日本史学基礎演習ⅠA~ⅡB」の8単位を修得していること。
- 卒業論文(4単位)は、日本史学演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

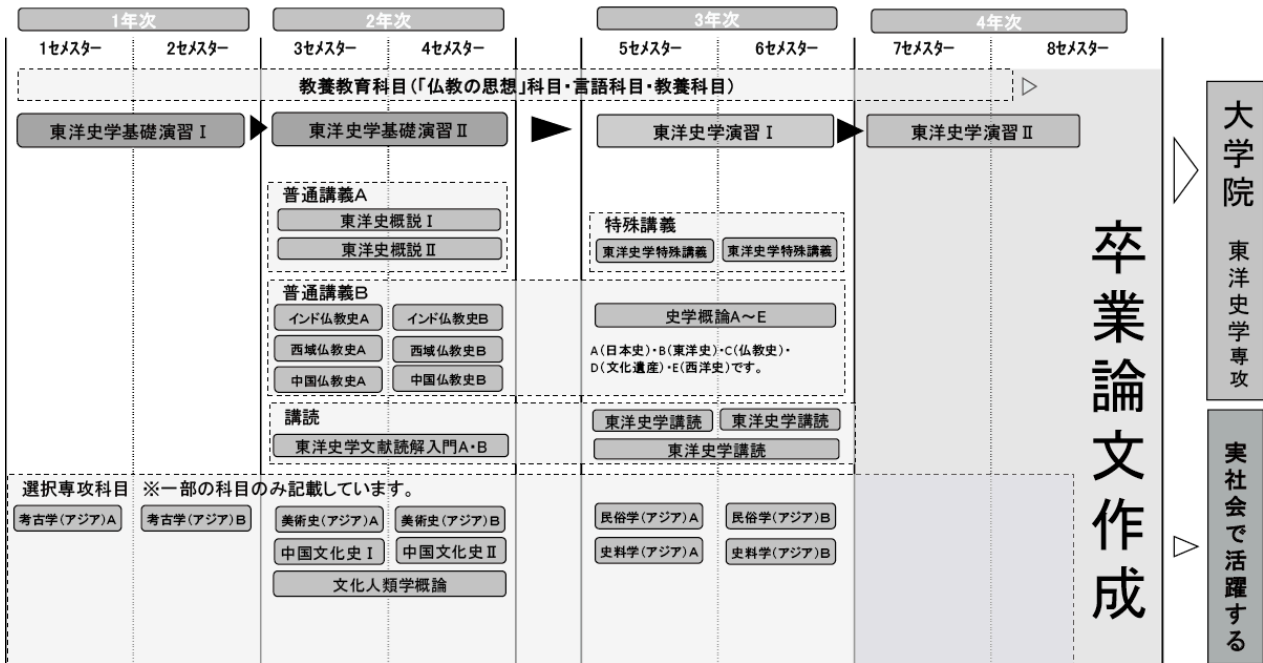
※[グレイドナンバー]科目名(単位数) 【開講キャンパス】を表しています。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次		3年次		4年次		履修規定
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
普通講義	○各学科・専攻の学修を進めるための基礎的・総合的な知識や態度を養育するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を深め、人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 日本史概説 I A (2)【大専】 [300] 日本史概説 I B (2)【大専】	[300] 日本史概説 II A (2)【大専】 [300] 日本史概説 II B (2)【大専】	[400] 史学概論 A (2)【大専】 [400] 史学概論 B (2)【大専】	[400] 史学概論 C (2)【大専】 [400] 史学概論 D (2)【大専】			史学概論 A～E のうち 2 科目 4 単位を含む 12 単位必修
特殊講義	1～2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を 3 年次から開講する。					[600] 日本史学特講義 A (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 A (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 B (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 B (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 C (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 C (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 D (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 D (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 E (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 E (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 F (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 F (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 G (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 G (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 H (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 H (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 I (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 I (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 J (2)【大専】 [600] 日本史学特講義 J (2)【大専】				2科目 4単位選択必修
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を把握する能力の養成をほかり、それによって人文学の幅広い知識を身につけることができるように、「講読」科目を 2 年次以降に開講する。			[300] 日本史学講読 1 (2)【大専】 [300] 日本史学講読 2 (2)【大専】 [300] 日本史学講読 3 (2)【大専】 [300] 日本史学講読 4 (2)【大専】	[400] 日本史学講読 5 (2)【大専】 [400] 日本史学講読 6 (2)【大専】 [400] 日本史学講読 7 (2)【大専】 [400] 日本史学講読 8 (2)【大専】 [400] 日本史学講読 9 (2)【大専】 [400] 日本史学講読 10 (2)【大専】 [400] 日本史学講読 11 (2)【大専】 [400] 日本史学講読 12 (2)【大専】				4科目 8単位選択必修	
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「話すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的な学修能力を養成するために、「基礎演習」(1～2年次)を開講する。	[200] 日本史学基礎演習 I A (2)【大専】 [200] 日本史学基礎演習 I B (2)【大専】	[200] 日本史学基礎演習 II A (2)【大専】 [200] 日本史学基礎演習 II B (2)【大専】							4科目 8単位必修
演習 I	学生が自主的に設定した学修テーマに基づき発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと導く能力を養育するために、「演習 I」(3年次)および「演習 II」(4年次)を開講する。					[400] 日本史学演習 I (4)【大専】				1科目 4単位必修
演習 II								[500] 卒業論文 (4)【大専】		2科目 8単位必修
								[500] 日本史学演習 II (4)【大専】		

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

【歴史学科東洋史学専攻カリキュラムマップ】

漢字文化圏やイスラーム文化圏の諸言語を習得しながら、広大なアジア全域の歴史・文化を学び、研究を深めます。



■歴史学科東洋史学専攻 必修専攻科目 科目区別 開設科目一覧

▼歴史学科東洋史学専攻の教育理念・目的

中国をはじめ、アジア諸地域の歴史・文化・宗教・言語に関する専門的な知識と技能を修得し、明確な歴史認識をもち、広い視野に立ってアジア全体を深く洞察できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

《履修上の注意点》

- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」(「東洋史学文献読解入門A・B」を除く)において規定の単位を超えて修得した単位は「選定専攻科目」となります。

■「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読 (A)」を修得した次年度に「講読 (A)」を再度履修登録することができます。

■卒業論文 (4単位) は、東洋史学演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

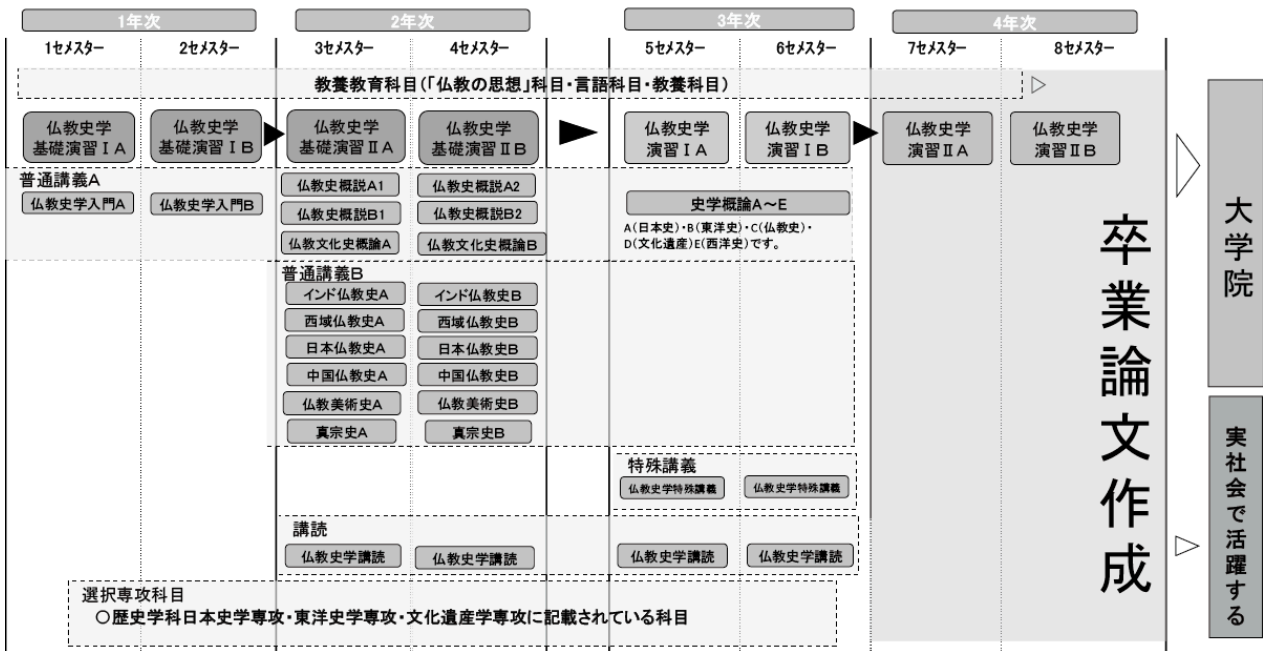
※ [グレイドナンバー] 科目名 (単位数) 【開講キャンパス】を表しています。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次		3年次		4年次		履修規定
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進めるための基礎的・全般的な知識や思考を養育するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を履修する。			[300] 東洋史概説Ⅰ (4)【大宮】 [300] 東洋史概説Ⅱ (4)【大宮】						2科目6単位必修
普通講義B	○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を履修する。			[300] インド仏教史A(2)【大宮】 [300] インド仏教史B(2)【大宮】	[400] 史学概論A(2)【大宮】 [400] 史学概論B(2)【大宮】					2科目4単位選択必修
普通講義C				[300] 西域仏教史A(2)【大宮】 [300] 西域仏教史B(2)【大宮】	[400] 史学概論C(2)【大宮】 [400] 史学概論D(2)【大宮】					
普通講義D				[300] 中国仏教史A(2)【大宮】 [300] 中国仏教史B(2)【大宮】	[400] 史学概論E(2)【大宮】					
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基礎知識を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から履修する。					[600] 東洋史学特殊講義(A) (2)【大宮】 [600] 東洋史学特殊講義(A)B (2)【大宮】 [600] 東洋史学特殊講義(B)A (2)【大宮】 [600] 東洋史学特殊講義(B) (2)【大宮】 [600] 東洋史学特殊講義(C)A (2)【大宮】 [600] 東洋史学特殊講義(C)B (2)【大宮】 [600] 東洋史学特殊講義(D)A (2)【大宮】 [600] 東洋史学特殊講義(D)B (2)【大宮】 [600] 東洋史学特殊講義(E)A (2)【大宮】 [600] 東洋史学特殊講義(E)B (2)【大宮】 [600] 東洋史学特殊講義(F)A (2)【大宮】 [600] 東洋史学特殊講義(F)B (2)【大宮】 [600] 東洋史学特殊講義(G)A (2)【大宮】 [600] 東洋史学特殊講義(G)B (2)【大宮】 [600] 東洋史学特殊講義(H)A (2)【大宮】 [600] 東洋史学特殊講義(H)B (2)【大宮】				2科目4単位選択必修
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を授け、その理解・消化を促し、それによって人文学の幅広い知識を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に履修する。			[500] 東洋史学基礎入門A(2)【大宮】 [500] 東洋史学基礎入門B(2)【大宮】	[400] 東洋史学講読(A) (4)【大宮】 [400] 東洋史学講読(B) (4)【大宮】	[600] 東洋史学講読(C)A (2)【大宮】 [600] 東洋史学講読(C)B (2)【大宮】 [400] 東洋史学講読(D)A (2)【大宮】 [400] 東洋史学講読(D)B (2)【大宮】 [600] 東洋史学講読(E)A (2)【大宮】 [600] 東洋史学講読(E)B (2)【大宮】	[400] 東洋史学講読(H) (4)【大宮】 [400] 東洋史学講読(I)A (2)【大宮】 [400] 東洋史学講読(I)B (2)【大宮】			「東洋史学基礎入門A」「東洋史学基礎入門B」は4単位以上履修し、上記以外の講読科目の中から4単位選択必修の合計6単位必修。
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「話すこと」「発表すること」を、大学の学びの基礎的なスキル等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習Ⅰ」(1・2年次)を履修する。	[200] 東洋史学基礎演習Ⅰ (4)【大宮】	[300] 東洋史学基礎演習Ⅱ (4)【大宮】							2科目6単位必修
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づき教員と学生が共同してレポート作成等を通して、課題を追究し、解決へと至る能力を養育するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を履修する。					[400] 東洋史学演習Ⅰ (4)【大宮】				1科目4単位必修
演習Ⅱ								[500] 卒業論文 (4)【大宮】		2科目6単位必修
卒業論文								[500] 東洋史学演習Ⅱ (4)【大宮】		

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

【歴史学科仏教史学専攻カリキュラムマップ】

私たちの精神の根底にある「仏教」の歴史を知ることによって「人間とは？」「仏教とは？」という本質的な問いを探究します。



■歴史学科仏教史学専攻 必修専攻科目 科目区別別 開設科目一覧

▼歴史学科仏教史学専攻の教育理念・目的

歴史的な視点に立って、仏教が、それぞれの時代・地域の中でどのように受け入れられ展開してきたのかを考察することにより、歴史的主体として現代社会に貢献できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといった学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する

《履修上の注意点》

- 「普通講義A」のうち「仏教史学入門A」「仏教史学入門B」（合計4単位）以外で、規定の単位を超えて修得した単位は、「選択専攻科目」となります。
- 「普通講義B」で、2科目グループ・8単位を超えて修得した場合は「選択専攻科目」となります。
- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は「選択専攻科目」となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読A1」を修得した次年度に「講読A1」を再度履修登録することができます。
- 卒業論文（4単位）は、仏教史学演習ⅡA・ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

※ [グレイドナンバー] 科目名 (単位数) 【開講キャンパス】を表しています。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次		3年次		4年次		履修規定
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
普通講義A		[100] 仏教史学入門A(2)【深草】	[200] 仏教史学入門B(2)【深草】	[300] 仏教史概説A1(2)【大宮】	[300] 仏教史概説A2(2)【大宮】	[400] 史学概論A(2)【大宮】	[400] 史学概論B(2)【大宮】			「仏教史学入門A」「仏教史学入門B」4単位と「仏教史学入門」4単位を除く普通講義Aの中から4単位選択必修の合計8単位必修。
普通講義B	○各学科・専攻の学修を進めるための基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、基礎・概説等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、基礎・概説等を行う「普通講義」科目を開講する。			以下の①～⑦の科目グループから8単位を履修 ① [300] インド仏教史A(2)【大宮】	[300] インド仏教史B(2)【大宮】					③～⑦の科目グループから8単位選択必修
特殊講義	1～2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかするために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。					[400] 仏教史学特講義A1(2)【大宮】	[400] 仏教史学特講義A2(2)【大宮】			4単位選択必修
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文脈を踏襲する能力の養成をはかり、それによって人文系の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 仏教史学講読F1(2)【深草】	[300] 仏教史学講読F2(2)【深草】	[400] 仏教史学講読C1(2)【大宮】	[400] 仏教史学講読C2(2)【大宮】			専攻指定(2年次のみ)3単位及び(3年次以上)履修可能な講読(単位の合計)8単位必修 専攻指定(2年次のみ)3講読(履修可能な科目)1科目は、専攻指定(3年次以上)の科目で履修しなければならない。
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「話すこと」を履修することから、大学の学修の基本的な方法やツール等を習得し、基礎的な学修能力を養成するために、「基礎演習」(1～2年次)を開講する。	[200] 仏教史学基礎演習ⅠA(2)【深草】	[200] 仏教史学基礎演習ⅠB(2)【深草】	[300] 仏教史学基礎演習ⅡA(2)【深草】	[300] 仏教史学基礎演習ⅡB(2)【深草】					4科目8単位必修
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づき(専攻史学以外の)少人数で切磋琢磨を通して、問題を解決し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次および演習Ⅱ)の履修を開講する。					[400] 仏教史学演習ⅠA(2)【大宮】	[400] 仏教史学演習ⅠB(2)【大宮】			2科目4単位必修
演習Ⅱ									[500] 卒業論文(4)【大宮】	3科目8単位必修
卒業論文									[200] 仏教史学演習ⅡA(2)【大宮】	[200] 仏教史学演習ⅡB(2)【大宮】

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

【歴史学科文化遺産学専攻カリキュラムマップ】

現代まで引き継がれてきた歴史遺産を分析・研究し、将来に残して活用する技術と方法を実践的に習得します。

1年次		2年次		3年次		4年次	
1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター
教養教育科目(「仏教の思想」科目・言語科目・教養科目)							
文化遺産学基礎演習A	文化遺産学基礎演習B	文化遺産学基礎演習C	文化遺産学基礎演習D	文化遺産学演習ⅠA	文化遺産学演習ⅠB	文化遺産学演習ⅡA	文化遺産学演習ⅡB
普通講義A 文化遺産学概論A 博物館概論		考古学実習A 文化遺産学概論A		文化財実習A			
文化遺産学概論B 博物館資料論		考古学実習B 文化遺産学概論B		文化財実習B			
		普通講義B 日本史概説ⅠA 日本史概説ⅡA 東洋史概説Ⅰ 東洋史概説Ⅱ 仏教史概説A1/B1 仏教史概説A2/B2		史学概論A～E A(日本史)・B(東洋史)・C(仏教史)・D(文化遺産)・E(西洋史)となっています。			
		講読 古文書学講読A 古文書学講読B		文化財資料講読A 日本考古学講読A 文化財科学講読A		文化財資料講読B 日本考古学講読B 文化財科学講読B	
選択専攻科目 ※一部の科目のみ記載しています。 (博)生進学習概論 博物館教育論		建築史概論 博物館経営論		工芸文化概論 博物館資料保存論 博物館展示論 博物館情報・メディア論		特殊講義 文献史学特殊講義A 考古学特殊講義A 美術史特殊講義A 文化財科学特殊講義A 文化財行政特殊講義A	
				文献史学特殊講義B 考古学特殊講義B 美術史特殊講義B 文化財科学特殊講義B 文化財行政特殊講義B		随意科目 ※一部の科目のみ記載しています。 博物館実習	

卒業論文作成

大学院

実社会で活躍する

■歴史学科文化遺産学専攻 専攻科目 科目区別 開設科目一覧

▼歴史学科文化遺産学専攻の教育理念・目的

文化遺産の歴史的意義を考え、将来へと守り伝えるための方法と技法を習得し、地域の文化的媒体として活用できる人材を育成する。あわせて、文化財の調査・研究、その保存と活用を行うための専門教育を通して、仏教美術・寺院建築・仏教儀礼等に向き合い、「建学の精神」を体現した自主的判断能力を持つ感受性の豊かな専門家を育成する。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

《履修上の注意点》

- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は「選択専攻科目」となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読A」を修得した次年度に「講読A」を再度履修登録することができます。
- 卒業論文(4単位)は、文化遺産学演習ⅡA・ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

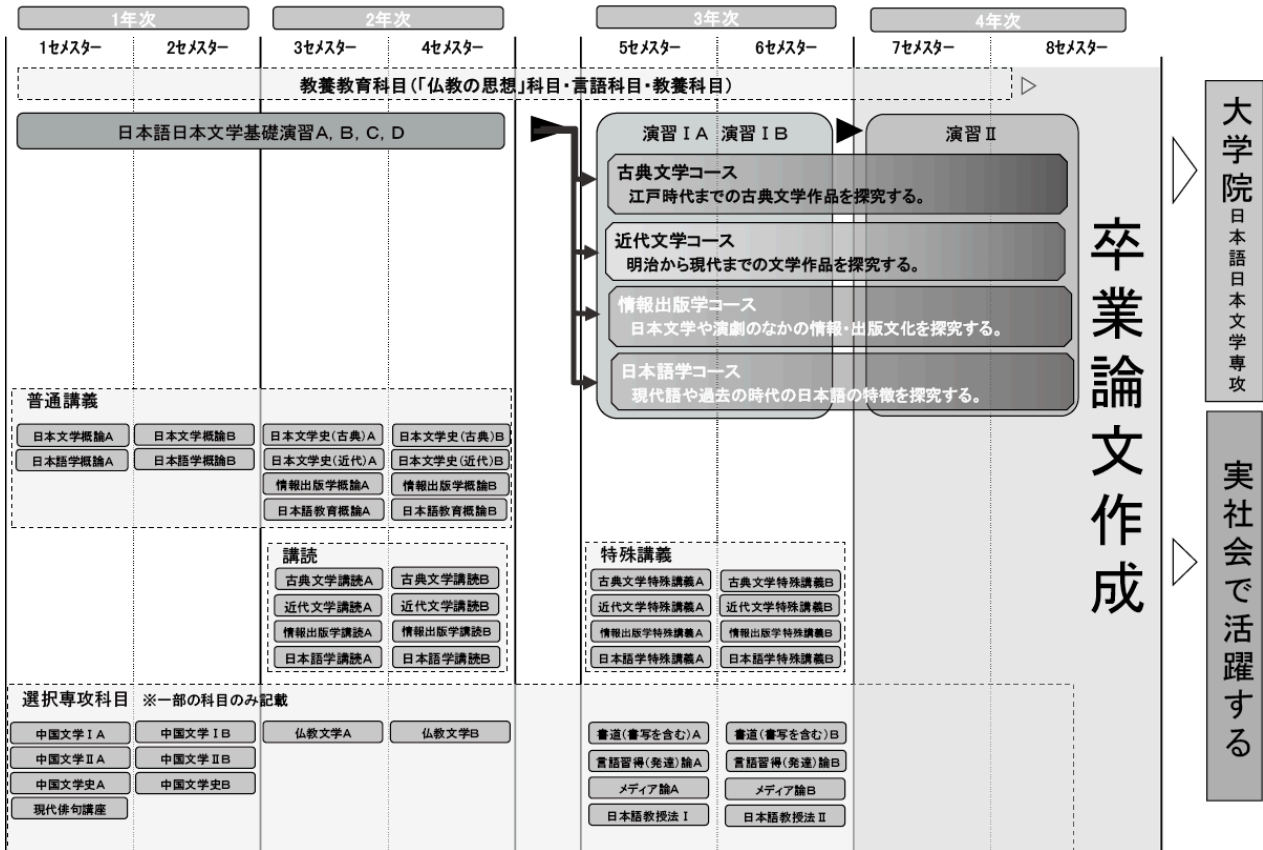
※[グレイドナンバー] 科目名 (単位数) 【開講キャンパス】を表しています。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次		3年次		4年次		履修規定	
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター		
普通講義A		[100] 文化通産学概論A(2)【深専】 [200] 文化通産学概論B(2)【深専】	[100] 動物学概論(2)【深専】 [200] 植物学概論(2)【深専】	[300] 考古学実習B(1)【大専】 [300] 文化通産学概論A(2)【深専】 [300] 文化通産学概論B(2)【深専】	[300] 考古学実習B(1)【大専】 [300] 文化通産学概論A(2)【深専】 [300] 文化通産学概論B(2)【深専】	400 文化財実習A(1)【大専】	400 文化財実習B(1)【大専】			10科目16単位必修	
普通講義B	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・発展的な知識や技術を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を履修する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を履修する。			[300] 日本文学概論ⅠA(2)【大専】 [300] 日本文学概論ⅠB(2)【大専】 [300] 日本文学概論ⅡA(2)【大専】 [300] 日本文学概論ⅡB(2)【大専】 [300] 東洋史概論Ⅰ(4)【大専】 [300] 東洋史概論Ⅱ(4)【大専】 [300] 私教史概論A1(2)【大専】 [300] 私教史概論A2(2)【大専】 [300] 私教史概論B1(2)【大専】 [300] 私教史概論B2(2)【大専】	[300] 日本文学概論ⅠA(2)【大専】 [300] 日本文学概論ⅠB(2)【大専】 [300] 日本文学概論ⅡA(2)【大専】 [300] 日本文学概論ⅡB(2)【大専】 [300] 東洋史概論Ⅰ(4)【大専】 [300] 東洋史概論Ⅱ(4)【大専】 [300] 私教史概論A1(2)【大専】 [300] 私教史概論A2(2)【大専】 [300] 私教史概論B1(2)【大専】 [300] 私教史概論B2(2)【大専】	400 史学概論A(2)【大専】 [400] 史学概論B(2)【大専】 [400] 史学概論C(2)【大専】 [400] 史学概論D(2)【大専】 [400] 史学概論E(2)【大専】				8単位選択必修	
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基礎を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から履修する。			[300] 古文書学講義A(2)【深専】 [300] 古文書学講義B(2)【深専】	[300] 古文書学講義A(2)【深専】 [300] 古文書学講義B(2)【深専】	400 文部史学特講義A(2)【大専】 [400] 文部史学特講義B(2)【大専】 [400] 考古学特講義A(2)【大専】 [400] 考古学特講義B(2)【大専】 [400] 美術史特講義A(2)【大専】 [400] 美術史特講義B(2)【大専】 [400] 文化財科学特講義A(2)【大専】 [400] 文化財科学特講義B(2)【大専】 [400] 文化財行政特講義A(2)【大専】 [400] 文化財行政特講義B(2)【大専】				2科目4単位選択必修	
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な知識を踏まえる能力の養成をはかり、それによって人文の深い理解を促すことにより、ことごとくできるように、「講読」科目を2年次以降に履修する。			[300] 古文書学講義A(2)【深専】 [300] 古文書学講義B(2)【深専】	[300] 古文書学講義A(2)【深専】 [300] 古文書学講義B(2)【深専】	400 文化財資料講義A(2)【大専】 [400] 文化財資料講義B(2)【大専】 [400] 日本考古学講義A(2)【大専】 [400] 日本考古学講義B(2)【大専】 [400] 文化財科学講義A(2)【大専】 [400] 文化財科学講義B(2)【大専】				2科目4単位選択必修	
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」を、大学の学びの基本的な方法・ツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を履修する。	[200] 文化通産学基礎演習A(2)【深専】 [200] 文化通産学基礎演習B(2)【深専】	[200] 文化通産学基礎演習A(2)【深専】 [200] 文化通産学基礎演習B(2)【深専】	[200] 文化通産学基礎演習C(2)【深専】 [200] 文化通産学基礎演習D(2)【深専】	[200] 文化通産学基礎演習C(2)【深専】 [200] 文化通産学基礎演習D(2)【深専】						4科目8単位必修
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づき発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へ必要な能力を修得するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を履修する。					400 文化通産学演習ⅠA(2)【大専】 [400] 文化通産学演習ⅠB(2)【大専】					2科目4単位必修
演習Ⅱ								[500] 文化通産学演習ⅡA(2)【大専】 [500] 文化通産学演習ⅡB(2)【大専】			2科目4単位必修
卒業論文									[500] 卒業論文(4)【大専】		1科目4単位必修

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

【日本語日本文学科カリキュラムマップ】

豊富な古典籍、貴重な資料に囲まれ日本の「言語文化」を学び、日本語・日本文学や情報出版文化の過去・現在・未来を考えます。



■日本語日本文学科 必修専攻科目 科目区別別 開設科目一覧

▼日本語日本文学科の教育理念・目的

日本語の正しい理解力、日本の言語文化に関する専門的読解力、論理的思考力、および表現力を修得し、「ことば」によって成り立つ社会の持続的発展に主体的に貢献できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」

「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといった学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

《履修上の注意点》

- 「普通講義」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は「選択専攻科目」となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読 (A)」を修得した次年度に「講読 (A)」を再度履修登録することができます。
- 日本語日本文学基礎演習A~Dはクラスにより履修登録を行う順番が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。
- 卒業論文 (4単位) は、演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

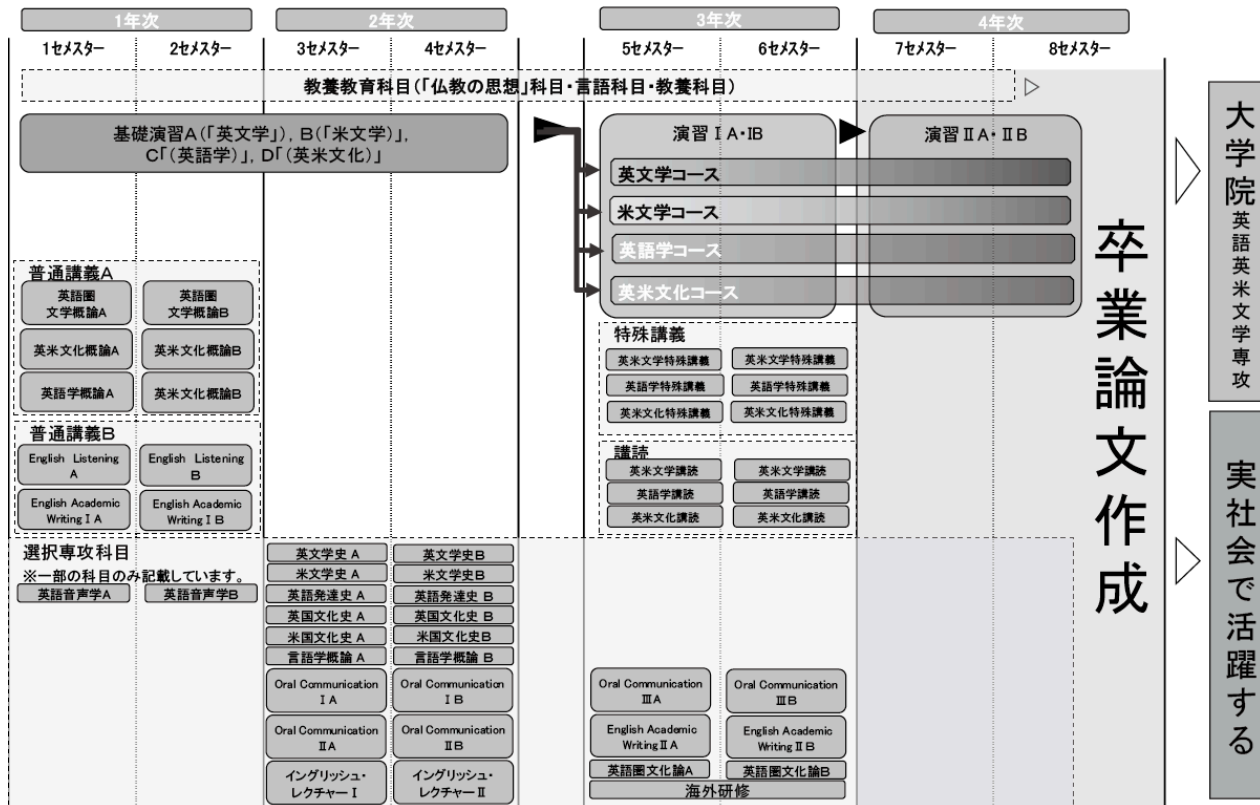
※ [グレイドナンバー] 科目名 (単位数) 【開講キャンパス】を表しています。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次		3年次		4年次		履修規定										
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター											
普通講義	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考力を養うために、基礎・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人文学界に対する関心を醸成するために、概論・概論等を先行「普通講義」科目を開講する。	[100] 日本文学概論A(2)【原専】 [200] 日本文学概論B(2)【原専】	[300] 日本文学史(古典)A(2)【大専】 [300] 日本文学史(古典)B(2)【大専】	[300] 日本文学史(近代)A(2)【大専】 [300] 日本文学史(近代)B(2)【大専】	[300] 情報出版学概論A(2)【大専】 [300] 情報出版学概論B(2)【大専】	[300] 日本語教育概論A(2)【大専】 [300] 日本語教育概論B(2)【大専】				6科目12単位選択必修										
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基礎を踏まえて、さらに学修の専門化・深化を図るために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。									2科目4単位選択必修										
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な知識を修得する能力の養成は、それによって人文学の幅広い知識を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 古典文学講読(A) (2)【原専】 [300] 古典文学講読(A) (2)【原専】	[300] 古典文学講読(B) (2)【大専】 [300] 古典文学講読(B) (2)【大専】	[300] 古典文学講読(C) (2)【大専】 [300] 古典文学講読(C) (2)【大専】	[300] 近代文学講読(A) (2)【大専】 [300] 近代文学講読(A) (2)【大専】	[300] 近代文学講読(B) (2)【大専】 [300] 近代文学講読(B) (2)【大専】	[300] 近代文学講読(C) (2)【原専】 [300] 近代文学講読(C) (2)【原専】	[300] 情報出版学講読(A) (2)【大専】 [300] 情報出版学講読(A) (2)【大専】	[300] 情報出版学講読(B) (2)【大専】 [300] 情報出版学講読(B) (2)【大専】	[300] 日本語学講読(A) (2)【大専】 [300] 日本語学講読(A) (2)【大専】	[300] 日本語学講読(B) (2)【大専】 [300] 日本語学講読(B) (2)【大専】	[300] 日本語学講読(C) (2)【大専】 [300] 日本語学講読(C) (2)【大専】						4科目8単位選択必修
基礎演習	「読対」と「書くこと」「探ること」を軸とする。大学での学びの基本的な方法・ツール等を習得し、基礎的・応用的な能力を養成するために、「基礎演習Ⅰ(1・2)」を開講する。	[200] 日本語日本文学基礎演習A(2)【原専】 [200] 日本語日本文学基礎演習A(2)【原専】	[200] 日本語日本文学基礎演習B(2)【原専】 [200] 日本語日本文学基礎演習B(2)【原専】	[200] 日本語日本文学基礎演習C(2)【原専】 [200] 日本語日本文学基礎演習C(2)【原専】	[200] 日本語日本文学基礎演習D(2)【原専】 [200] 日本語日本文学基礎演習D(2)【原専】															4科目8単位必修
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づき発表とディスカッション、レポート作成を通して、問題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。																			2科目4単位選択必修。同一分野(古典文学、近代文学、情報出版学、日本語学)で1A・1Bを履修すること。
演習Ⅱ 卒業論文																				卒業論文4単位及び、同一分野の演習Ⅱ(古典文学、近代文学、情報出版学、日本語学)の4単位、合計8単位必修。

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

【英語英米文学科カリキュラムマップ】

ネイティブ教員の授業で英語コミュニケーション能力を育成。また、学生の興味に応じて英米文学や文化、言語学などを学びます。



■英語英米文学科 必修専攻科目 科目区別別 開設科目一覽

▼英語英米文学科の教育理念・目的

英国・米国をはじめとする英語圏に関する言語・文学・文化についての知識を修得し、広い視野に立って英語圏地域を深く洞察する能力を身に付け、国際化する現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといった学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

《履修上の注意点》

- 「普通講義A」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は「選択専攻科目」となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返し履修登録することができます。例えば、「講読(A)」を修得した次年度に「講読(A)」を再度履修登録することができます。
- 卒業論文(4単位)は、演習IIを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

※ [グレイドナンバー] 科目名 (単位数) 【開講キャンパス】を表しています。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次		3年次		4年次		履修規定
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
普通講義	○各学科・専攻の修得を促すための基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえ、人間社会に対する問題意識を育成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。	[100] 英語学概論A(1)【英文学】	[200] 英語学概論B(2)【英文学】	[100] 英米文化概論A(1)【英文学】	[200] 英米文化概論B(2)【英文学】					4科目8単位選択必修
		[100] 英語学概論A(1)【英文学】	[100] 英語学概論B(2)【英文学】	[100] English Listening A(1)【英米学】	[200] English Listening B(2)【英米学】					
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。									2科目4単位選択必修
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を熟読する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。									4科目8単位選択必修
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「話すこと」「発表すること」の4つを軸とした、基礎的な学問的スキルを習得し、基礎的な学問的能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	A～Dはクラスにより履修登録を行う順番が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。								4科目8単位必修
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づき、論文の作成、プレゼン、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。					[400] 英文学演習ⅠA(2)【大富】	[400] 英文学演習ⅠB(2)【大富】			2科目4単位選択必修。 同一分野(英文学、米文学、英米学、英米文化)で1・A・1・Bを履修すること。
						[400] 英文学演習ⅠA(2)【大富】	[400] 英文学演習ⅠB(2)【大富】			
演習Ⅱ 卒業論文								[500] 卒業論文(4)【大富】		卒業論文A単位及び、同一分野の演習ⅠA・II B(英文学・米文学・英米学・英米文化)の4単位、合計8単位必修。

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

【2】 選択専攻科目 開設科目一覧

■履修方法

- 以下の表から自由に選択し、24単位以上(哲学科哲学専攻・歴史学科仏教史学専攻は20単位以上、歴史学科文化遺産学専攻は16単位以上)を修得しなければなりません。規定の単位を超えて修得した単位は、「フリーゾーン」の単位として卒業要件単位に含めることができます。
- 各学科・専攻ごとに定められた必修専攻科目の規定の単位を満し、それを超えて修得した必修専攻科目については、選択専攻科目として扱われます(下表の備考欄に詳細は記載しています)。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読(A)」を修得した次年度に「講読(A)」を再度履修登録することができます。

▼選択専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針《抜粋》

- 学生の多様な興味・関心を喚起し、学修意欲を促進するために、どの科目を履修するかはすべて学生の選択に任せられている「選択科目」を開講する。

※【グレイドナンバー】科目名(単位数) 【開講キャンパス】を表しています。

	1年次		2年次		3年次		備考
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	
真宗学関係科目	[200] 真宗学概論Ⅰ(2)【京都】	[200] 真宗学概論Ⅱ(2)【京都】	[300] 仏教史論Ⅰ(2)【京都】	[300] 仏教史論Ⅱ(2)【京都】	[400] 宗教伝道Ⅰ(2)【大富】	[400] 宗教伝道Ⅱ(2)【大富】	真宗学以外の学生
仏教学関係科目	[100] 仏教入門A(1)【京都】	[100] 仏教入門B(2)【京都】	仏教学必修専攻科目：普通講義A、普通講義B、特殊講義、講読(仏教学入門A・Bを除く)の科目		[400] 仏教と異思想Ⅰ(2)【大富】	[400] 仏教と異思想Ⅱ(2)【大富】	仏教学以外の学生
	[200] 仏教入門A(1)【京都】	[200] 仏教入門B(2)【京都】	[300] 仏教史論Ⅰ(2)【京都】	[300] 仏教史論Ⅱ(2)【京都】	[400] インドの仏教と文化A(2)【大富】	[400] インドの仏教と文化B(2)【大富】	■語学科目の先修制について マニピニ・チベット語仏教入門A2・B2、パーリ語仏教入門Bの受講にあたっては、それぞれA1・B1、Aの科目の単位を修得しなくては履修することができません。
哲学科哲学専攻関係科目	[200] 宗教と倫理(2)【キャンパスアサヒ 京都】	[200] 宗教と平和(2)【キャンパスアサヒ 京都】	[300] 宗教学概論A(2)【大富】	[300] 宗教学概論B(2)【大富】	[400] 現代アジアの仏教と社会A(2)【大富】	[400] 現代アジアの仏教と社会B(2)【大富】	哲学科哲学専攻以外の学生
			[300] 宗教史A(2)【大富】	[300] 宗教史B(2)【大富】	[400] 仏教と日本の文化C(2)【大富】	[400] 仏教と日本の文化D(2)【大富】	
哲学科教育学専攻関係科目			哲学科教育学専攻必修専攻科目：普通講義A、普通講義B、特殊講義、講読(3年次以上受講可能な科目のみ)の科目		[400] 教育行政学A(2)【大富】	[600] 教育行政学B(2)【大富】	哲学科教育学専攻以外の学生
			[300] 現代倫理学特論(2)【大富】	[300] 社会学特論(2)【大富】	[400] 社会教育計画(4)【大富】	[400] 社会教育特論Ⅰ(4)【大富】	■「学習心理学」「認知心理学」の受講にあたっては、「人間科学論」の単位を修得しなくては履修することができません。
歴史学関係科目	[200] 現代社会論(4)【京都】		[300] 矯正教育論Ⅰ(2)【京都】	[300] 矯正教育論Ⅱ(2)【京都】	[400] 民俗学(日本)A(2)【大富】	[400] 民俗学(日本)B(2)【大富】	歴史学日本史専攻以外の学生
		[200] 心理学史(2)【京都】	[300] 現代倫理学特論(2)【大富】	[300] 社会学特論(2)【大富】	[400] 民俗学(アジア)A(2)【大富】	[400] 民俗学(アジア)B(2)【大富】	■「古文書学入門A・B」は、歴史学日本史専攻の学生のみ受講可。
				[400] 史科学(日本)A(2)【大富】	[400] 史科学(日本)B(2)【大富】		
				[400] 史科学(アジア)A(2)【大富】	[400] 史科学(アジア)B(2)【大富】		
				[400] 史科学(中国)A(2)【大富】	[400] 史科学(中国)B(2)【大富】		
				[400] 史科学(インド)A(2)【大富】	[400] 史科学(インド)B(2)【大富】		
				[400] 史科学(中東)A(2)【大富】	[400] 史科学(中東)B(2)【大富】		
				[400] 史科学(南米)A(2)【大富】	[400] 史科学(南米)B(2)【大富】		

日本語日本文学関係科目	日本語日本文学専攻必修科目：普通講義、特別講義、演練の科目						日本語日本文学以外の学生
[100] 中国文学ⅠA(2)【深草】※ [200] 中国文学ⅠB(2)【深草】※ [300] 仏教文学A(2)【大宮】 [300] 仏教文学B(2)【大宮】 [400] 書道(書写を含む)B(2)【大宮】 [400] 書道(書写を含む)B(2)【大宮】	[200] 中国文学ⅡA(2)【大宮】※ [200] 中国文学ⅡB(2)【大宮】※ [300] 情報処理Ⅰ(2)【両学舎】 [300] 情報処理Ⅱ(2)【両学舎】 [400] 言語習得(発達)論A(2)【大宮】 [400] 言語習得(発達)論B(2)【大宮】	[100] 中国文学史A(2)【大宮】 [200] 中国文学史B(2)【大宮】 [300] 情報処理Ⅰ(2)【両学舎】 [300] 情報処理Ⅱ(2)【両学舎】 [400] メディア論A(2)【大宮】 [400] メディア論B(2)【大宮】	[100] 現代俳句講座(2)【深草】	[300] 国際経済法Ⅰ(2)【大宮】 [300] 国際経済法Ⅱ(2)【大宮】 [300] 日本語教授法Ⅰ(2)【大宮】 [300] 日本語教授法Ⅱ(2)【大宮】	[400] 日本語教育実習A(1)【大宮】 [400] 日本語教育実習B(1)【大宮】	■中国文学ⅠA・ⅠBと中国文学ⅡA・ⅡBは隔年開講 ■日本語教育実習A・Bの先修科として 日本語教育実習A・Bの受講にあたっては、日本語教育概論A各のうちのいずれか2単位を修得していなければ履修することができません。	
英語英米文学関係科目	英語英米文学専攻必修科目：普通講義A、特別講義、演練の科目						英語英米文学以外の学生
[200] 英語音声学A(2)【深草】 [200] 英語音声学B(2)【深草】	[300] 英文学A(2)【大宮】 [300] 英文学B(2)【大宮】 [400] Oral Communication ⅢA(2)【大宮】 [400] Oral Communication ⅢB(2)【大宮】	[300] 米文学A(2)【大宮】 [300] 米文学B(2)【大宮】 [400] English Academic Writing ⅡA(2)【大宮】 [400] English Academic Writing ⅡB(2)【大宮】	[300] 英語発達史A(2)【大宮】 [300] 英語発達史B(2)【大宮】 [400] 英語圏文化論A(2)【大宮】 [400] 英語圏文化論B(2)【大宮】	[300] 英国文化史A(2)【大宮】 [300] 英国文化史B(2)【大宮】 [300] 米国文化史A(2)【大宮】 [300] 米国文化史B(2)【大宮】 [300] 言語学概論A(2)【大宮】 [300] 言語学概論B(2)【大宮】	[300] Oral Communication Ⅰ&2【両学舎】 [300] Oral Communication Ⅲ&2【両学舎】 [300] Oral Communication Ⅳ&2【両学舎】 [300] Oral Communication Ⅴ&2【両学舎】 [300] Oral Communication Ⅵ&2【両学舎】 [300] Oral Communication Ⅶ&2【両学舎】 [300] Oral Communication Ⅷ&2【両学舎】 [300] Oral Communication Ⅸ&2【両学舎】 [300] Oral Communication Ⅹ&2【両学舎】	[400] 経済学論(4)【大宮】 [400] 政治学原理(4)【大宮】 [400] 政治学(地誌)(4)【大宮】 [400] 地理学(地誌)(4)【大宮】 [400] 自然地理学(4)【両学舎】	
教職課程関係科目	[100] 教育情報処理演習(2)【両学舎】 [100] 教育情報処理演習(2)【両学舎】	[100] 教育情報処理演習(2)【両学舎】 [100] 教育情報処理演習(2)【両学舎】	[300] 東洋史A(2)【大宮】 [300] 東洋史B(2)【大宮】 [300] 西洋史(4)【大宮】 [300] 人文地理学(4)【大宮】 [300] 歴史地理学(4)【大宮】 [300] 社会学概論(4)【大宮】 [300] 社会学概論(4)【大宮】	[300] 東洋史A(2)【大宮】 [300] 東洋史B(2)【大宮】 [300] 西洋史(4)【大宮】 [300] 人文地理学(4)【大宮】 [300] 歴史地理学(4)【大宮】 [300] 社会学概論(4)【大宮】 [300] 社会学概論(4)【大宮】	[400] 経済学論(4)【大宮】 [400] 政治学原理(4)【大宮】 [400] 政治学(地誌)(4)【大宮】 [400] 地理学(地誌)(4)【大宮】 [400] 自然地理学(4)【両学舎】		
博物館学芸員課程関係科目	[100] 生進学習概論(2)【深草】 [100] 博物館概論(2)【深草】 [100] 博物館教育論(2)【深草】	[200] 矯正・保護入門(2)【深草】	[300] 博物館概論(2)【大宮】 [300] 博物館展示論(2)【大宮】 [300] 博物館学芸員実務(2)【深草】	[300] 博物館概論(2)【大宮】 [300] 博物館展示論(2)【大宮】 [300] 博物館学芸員実務(2)【深草】	[400] 被害者学(4)【両学舎】 [400] 矯正社会学(4)【深草】 [400] 犯罪心理学(4)【両学舎】 [400] 青少年問題(2)【深草】 [400] 矯正医学(2)【深草】		■「博物館情報・メディア論」は、深草学舎と両田学舎の両方で開講されます。
矯正・保護課程関係科目 (特別研修課程「矯正・保護課程」 提供科目)		[200] 矯正・保護入門(2)【深草】	[300] 矯正概論(4)【深草】 [300] 更生保護概論(4)【深草】 [300] 矯正教育学(4)【深草】	[300] 矯正概論(4)【深草】 [300] 更生保護概論(4)【深草】 [300] 矯正教育学(4)【深草】	[400] 被害者学(4)【両学舎】 [400] 矯正社会学(4)【深草】 [400] 犯罪心理学(4)【両学舎】 [400] 青少年問題(2)【深草】 [400] 矯正医学(2)【深草】		■この一覧に記載される科目を履修登録(未登録)し、履修すれば、卒業要件単位として認定されます。
留学関係科目(RIP/Ryukoku Intercultural Program)履修科目は除く (RIP/Ryukoku Intercultural Program)履修科目は111ページ参照)			[300] 国際文化交流研修(2)～(8)【詳細は111・112ページ参照】	[300] 国際文化交流研修(2)～(8)【詳細は111・112ページ参照】	[400] 海外研修(4)【詳細は114ページ参照】		
文学部共通科目	[100] 探究型科目PBL入門【深草】				[400] 探究型科目PBL演習【大宮】		
キャリア開発科目	キャリア形成論(2)【深草】 (1・2年次のみ) 前期・後期の両方に開講されます。	キャリア形成論(2)【深草】 (1・2年次のみ) 前期・後期の両方に開講されます。			[400] キャリア開発論(2)【大宮】 (3年次のみ)		

※他学部開講科目についても受講できる場合があります。その場合、掲示板・ポータルサイトでお知らせします。

【3】 随意科目 開設科目一覧

※【グレイドナンバー】科目名(単位数) 【開講キャンパス】を表しています。

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
■教職課程科目 (※履修方法等については、2024年度入学生用教職課程ガイドブックを参照のこと)			生徒・進路指導論(2)【深草】		道徳教育指導法(2)【大宮】	教育の方法と技術(2)【大宮】		教育実習指導ⅡA(中免用実習)(4)【大宮】
			学校教育社会学(2)【深草】	学校教育社会学(2)【深草】	総合的な学習の時間・特別活動論(2)【大宮】		教育実習指導ⅡB(中免用実習)(2)【大宮】	
			前期・後期の両方に開講されます。		教育実習指導Ⅰ(1)【大宮】		教職実践演習(中・高)(2)【大宮】	
			教職論(2)【深草】	教育課程論(2)【深草】	教育相談(2)【大宮】			
			介護等体験(2)【深草】		宗教科教育法Ⅰ(2)【大宮】	宗教科教育法Ⅱ(2)【大宮】		
			宗教科教育法A(2)【深草】	宗教科教育法B(2)【深草】	国語科教育法Ⅰ(2)【大宮】	国語科教育法Ⅱ(2)【大宮】		
			国語科教育法A(2)【深草】	国語科教育法B(2)【深草】	英語科教育法Ⅰ(2)【大宮】	英語科教育法Ⅱ(2)【大宮】		
			英語科教育法A(2)【深草】	英語科教育法B(2)【深草】	社会科・地理科教育法Ⅰ(2)【大宮】	社会科・地理科教育法Ⅱ(2)【大宮】		
			英語科教育法A(2)【深草】	体育実技(1)【深草】	社会科・公民科教育法Ⅰ(2)【大宮】	社会科・公民科教育法Ⅱ(2)【大宮】		
			教職コンピュータ基礎(2)【深草】	教職コンピュータ基礎(2)【深草】				
			前期・後期の両方に開講されます。					
	■博物館学芸員課程科目							博物館実習(3)【大宮】
	■図書館司書課程科目(2012年度以降入学生対象科目)							
	(司) 生進学習概論(2)【深草】	(司) 図書館サービス概論(2)【深草】	(司) 図書館情報技術論(2)【深草】	(司) 情報サービス実習B(1)【深草】	(司) 図書館実習(1)【深草】			
	(司) 図書館情報学概論(2)【深草】	(司) 図書館情報資源概論(2)【深草】	(司) 情報サービス論(2)【深草】	(司) 図書館制度・経営論(2)【深草】	(司) 図書館総合演習(2)【深草】			
(司) 図書・図書館史(2)【深草】	(司) 児童サービス論(2)【深草】	(司) 情報資源組織実習A(1)【深草】						
(司) 図書館基礎特論(2)【深草】	(司) 情報サービス実習A(1)【深草】	(司) 情報資源組織実習B(1)【深草】						
	(司) 情報資源組織論(2)【深草】							
	(司) 図書館情報資源特論(2)【深草】							
	(司) 図書館サービス特論(2)【深草】							
	(司) 図書館施設論(2)【深草】							
■学校図書館司書教諭課程科目			(学) 学校経営と学校図書館(2)【深草】	(学) 学習指導と学校図書館(2)【深草】				
			(学) 学校図書館とメディアの構成(2)【深草】	(学) 読書と豊かな人間性(2)【深草】				
				(学) 情報メディアの活用(2)【深草】				
■本願寺派教師資格課程科目								
	勅式(4)【深草】				教化法(4)【大宮】 ※深草・大宮ともに開講されるが科目の修得でよい			
	宗門法規(2)【深草】							
教化法(4)【深草】 ※深草・大宮ともに開講されるが科目の修得でよい (本山教師)仏教史(1)【深草】								
(本山教師)宗教概説(1)【深草】								

各種留学・国際文化交流研修・海外研修について

【1】Ryukoku Intercultural Study Experience Program

1) 5-week

①認定単位：6単位（履修制限単位には含まず）

②認定科目名等

受講科目	単位数	認定科目名	認定分野
English language (RISE)	2	English language (RISE)	教養
Cultural Adaptation (RISE)	2	Cultural Adaptation (RISE)	教養
Global PBL (RISE)	2	Global PBL (RISE)	※

※Global PBL (RISE) の単位認定分野については、学生が専攻科目もしくは教養教育科目を選択する。

・専攻科目で単位認定された場合は選択専攻科目、教養教育科目で単位認定された場合は選択科目として扱われる。

③成績表記：N

2) Semester

①認定単位：18単位

②認定科目名等

受講科目	単位数	認定科目名	認定分野
English language (RISE)	10	必修外国語（英語）科目として個別に認定する。（※）必修外国語（英語）認定後の余剰単位については、「English language (RISE)」（専攻科目又は教養教育科目）として一括認定する。（☆）	
①Social Civic Engagement (RISE)	2	Social Civic Engagement (RISE)	☆
②Applied Cultural Adaptation (RISE)	2	Applied Cultural Adaptation (RISE)	
Advanced Global PBL (RISE)	4	Advanced Global PBL (RISE)	☆

※原則として留学期間中に配当されるセメスター分の言語必修科目（英語）を個別に認定する。また、不合格のため未修得である言語必修科目（英語（すべて1単位））についても認定する。

2025年度以降入学生

学年	1年生		2年生	
	1セメ	2セメ	3セメ	4セメ
開設科目	英語総合1 (A) 英語総合1 (B)	英語総合2 (A) 英語総合2 (B)	英語総合3	英語総合4

☆English language (RISE) ・ Social Civic Engagement (RISE) ・ Applied Cultural Adaptation (RISE) ・ Advanced Global PBL (RISE) の単位認定分野については、学生が専攻科目もしくは教養教育科目を選択する。

③成績表記：N

【2】 交換留学・私費留学における単位認定

1) 認定の上限および分野

原則として、言語科目・選択専攻科目・フリーゾーンの範囲内

2) 1単位の認定にあたっての学修時間の目安

講義科目：675分の授業時間をもって1単位を認定します（90分×15回÷2）

語学科目・実技科目：1,350分の授業時間をもって1単位を認定します（90分×15回）

◎留学にあたっての必要な書類

（※印のあるものは単位認定にあたって必要な書類です。希望者のみ提出してください）

出発前

注) 単位認定を希望する場合は出発前に手続きを行ってください。

手続き・書類	提出先
(交換留学) 情報入力フォーム (私費留学) 渡航方法連絡票・滞在先連絡票	(交換留学) グローバル教育推進センター (私費留学) Campus HUB
※単位認定の申込について	Campus HUB
※国際文化交流研修の申込について	
※国際文化交流研修計画書	
卒業保留願（卒業年次生のみ） 注1	

注1 卒業要件単位を全て満たしている卒業保留希望者は、原則として帰国後の単位認定は行いません。

帰国後

手続き・書類	提出先
留学生帰国報告書	(交換留学) グローバル教育推進センター (私費留学) Campus HUB →グローバル教育推進センター
留学帰国レポート	
成績証明書	
修了証明書	
※単位認定申請書	Campus HUB
※講義科目報告書	
※国際文化交流研修報告書（レポート）	
※履修科目の登録確認表等 （時間割・単位数等が記載されたもの）	
※学年暦	
※シラバス	
※受講時間割	

☆卒業年次生で帰国後卒業を希望する学生の書類提出期日は1月末日です。

3) 卒業年次に留学する場合の注意点

留学終了後直ちに卒業するためには、次の条件をすべて満たす必要があります。書類での手続きが必要なため、事前にCampus HUBに相談してください。

- ① 留学終了後に認定が確実な科目を除いて、卒業年次の残単位数が「演習Ⅱ」「卒業論文」の8単位以下であること。
- ② 卒業論文の内容が、留学先での勉学と密接に関係があり、留学先の教員による論文作成指導を受けることができること。
- ③ 留学中においても、文学部指導教員およびCampus HUBと定期的に連絡をもてるようにすること。

4) 後期から留学する場合の通年開講の演習科目の取り扱い

前期に演習科目を登録しているので、後期から1年間留学すると通年科目の登録が無効となります。しかし、指導教授が認めた場合、演習科目に限っては、帰国後、後期に演習科目の後期開講部分を履修することにより単位を認定することができます。ただし、対象となる科目は通年開講「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒業論文」の5科目に限られています。詳細については、Campus HUBに相談してください。

【3】国際文化交流研修

この科目は、通常の開設科目とは異なり、学生が自主的に行う海外での国際文化交流に対して単位を認定するものです。大学が全て用意したパック研修ではなく、学生の個性と自主性にもとづいた国際文化交流（短期研修・語学研修・交換留学・私費留学等）を評価し、単位を認定します。研修旅行や留学の目的・期間・行先等を、学生自身で計画し、実行することができます。履修登録を希望する学生は、定められた手続きに従ってください。

1) 受講対象

文学部1年次以上の正規学生

2) 科目名等

「国際文化交流研修」選択専攻科目として卒業要件単位となります。

3) 認定単位

2～8単位（履修制限単位には含まれません） ※次の基準で単位数は定められています。

2単位：3週間程度の研修期間で、4,000字程度の「国際文化交流研修報告書」を提出した場合

4単位：5週間程度の研修期間で、8,000字程度の「国際文化交流研修報告書」を提出した場合

8単位：6か月以上の正規留学期間で、12,000字程度の「国際文化交流研修報告書」を提出した場合

※8単位以内であれば、単位を分割して複数回同科目を履修登録することができます。ただし、在学中修得できるのは8単位が上限です。

4) 履修申込手続き

- ① 所定の「国際文化交流研修計画書」をCampus HUB窓口へ下記期日までに提出してください。この計画書の内容にもとづいて、履修登録の許可が判定されます。

夏休みに実施する場合：6月末日（土日を除く）

春休みに実施する場合：1月の授業再開日（土日を除く） ※4年次生は春休みの実施不可

- ② 正規留学（私費留学または交換留学）で、この科目を履修登録しようとする場合、計画書の提出期限については個別対応になります。留学前の早い時期にCampus HUB窓口申し出てください。

ア) 必ず海外で国際文化交流研修を行わなければなりません。

イ) 研修期間は次の2通りに分けられます。

○正規留学ではない短期研修の場合

授業期間外および定期試験期間外を研修期間としなければなりません。必然的に、夏期休業中が主な研修期間になります。しかし、通

常の授業科目履修の障害とならない研修期間の設定が他にある場合は、Campus HUBに相談してください。

○正規留学（私費留学または交換留学）として本学において認められた場合は、正規留学として認められた留学期間が研修期間に該当します。

ウ) 海外旅行傷害保険の加入

履修登録の許可された学生は、必ず海外旅行傷害保険に加入してから研修に出発してください。

5) 単位認定・成績評価

- ① 履修登録を許可された学生は、海外での国際文化交流で得た成果を「国際文化交流研修報告書」にまとめ、所定の表紙を貼り付けて、帰国後2週間以内にCampus HUBに提出してください。
- ② 研修先で「修了証明書」等が交付されている場合は、「国際文化交流研修報告書」とともに提出してください。
- ③ 「国際文化交流研修報告書」には指定の様式はありません。認定単位数に応じた字数となるように、自由に報告書を作成できます。
- ④ 履修登録許可時に発表された単位数は、提出された「国際文化交流研修報告書」の内容に応じて変更されることがあります。

※報告書の提出がなかった場合の評点は「0点」となります。

【4】 海外研修

1) 英語集中プログラム

① 科目の趣旨

この科目は、通常の開設科目とは異なり、米国及び英国等の大学がもつ英語集中プログラムに学生が自主的に参加して、そこで得た成績に対して文学部が評価を与えるものです。

② 対象学生

文学部3年次以上の正規学生

③ 科目名等

「海外研修」 選択専攻科目として卒業要件単位となります。(※)

④ 認定単位

4単位（履修制限単位には含まれません）

⑤ 研修先

説明会時に発表します

⑥ 履修申込手続き

履修希望者は、説明会に出席し、具体的な手続きを進めてください。

⑦ 成績評価

研修先で得た成績に対して文学部が評価します。帰国後研修先で得た「修了証明書」等を文学部教務課窓口へ提出してください。

⑧ 研修期間

4週間から6週間

⑨ 研修費用

各大学とも授業料は1,000ドル程度

2) 台湾留学プログラム

① 科目の趣旨

文学部の国際化を推進するために、夏季休業を利用した台湾短期留学プログラム（学内における事前・事後学習と、3週間の現地プログラム）を実施する。

- 中国語Ⅰ・Ⅱの単位修得を応募資格とする。（事前学習）
- 現地において、前半2週間は台湾の佛光大学にて中国語の語学研修を行い、後半1週間は台湾の歴史や文化に触れるフィールド調査を実施する。（現地プログラム）
- 現地での学びをレポートにまとめ、報告会を実施する。（事後学習）

②対象学生

文学部2年次以上の正規学生

③科目名等

「海外研修」 選択専攻科目として卒業要件単位となります。（※）

④認定単位

4単位（履修制限単位には含まれません）

⑤研修先

台湾

⑥履修申込手続き

履修希望者は、説明会に出席し、具体的な手続きを進めてください。

⑦成績評価

事後レポートをもって文学部が評価します。レポート提出についての詳細は、説明会内で指示します。

⑧研修期間

夏季休暇中の3週間

⑨研修費用

10万円前後

※在学中に両方のプログラムに参加し、単位を修得した場合、4単位分は選択専攻科目として卒業要件単位となりますが、残りの4単位分は随意科目として単位認定されます。

ルーブリック・研究科について

ルーブリック

(1) 「ルーブリック」とは

ルーブリックとは評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」により構成されたものです。ルーブリックを活用することにより、学修の目標が明確にされます。また、先生と学生の皆さんの双方が現時点の達成水準を客観的に把握することができます（中央教育審議会答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』2012年8月28日参照）。

卒業論文ルーブリックは文学部の4年間の学修の集大成である卒業論文の自分の達成水準を知るために使うものです。また、アカデミック・リテラシー・ルーブリックは文学部の皆さんが卒業の時までに備えてほしい基礎的な能力です。いずれも右の列に行くほど達成水準が高くなっていきます。これらのルーブリックを活用することで、学生の皆さんが卒業時までに習得していかなければならない能力を事前に知るとともに、今自分がどの位置にいるのかを知ることができます。

なお、ここで示したルーブリックはあくまでも一例です。これによる評価が皆さんの単位認定に関わる評価にそのまま結びつくとは限りません。特に、卒業論文ルーブリックについては各学科専攻の形式に合わせた形のをスタディガイドに掲載しています。詳しいことは学科・専攻の教員の指示に従ってください。

(2) 文学部アカデミック・リテラシー・ルーブリック

*1 このアカデミックスキル・ルーブリックは学生の皆さんが、龍谷大学の文学部生として求められるスキルを、どの程度達成できているかを確認するためのものです。

*2 おりにふれて、このルーブリックで自分の学修状況を振り返り、自身の学修に足りないものを確認し、各自の学修を深めるツールとして利用してください。

		相当の努力を要する	やや努力を要する	十分満足できる	期待している以上である
①：建学の精神の具現化	建学の精神の意義について理解している。	大学の主催する宗教行事などに全く参加しておらず、建学の精神も理解できていない。	大学の主催する宗教行事などにあまり参加しておらず、建学の精神があまり理解できていない。	大学の主催する宗教行事などにある程度参加し、建学の精神を理解しようと努めている。	大学の主催する宗教行事などに積極的に参加し、建学の精神を体現・実行できている。
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	人間社会において「言語(ことば)」の持つ影響力について深く理解し、人文学の幅広い知識を身につけている。	「言語(ことば)」の持つ力をまったく理解できていないため、テキストの読解ができず、人文学の幅広い知識の修得もできていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語(ことば)」の持つ力が必ずしも理解できていないため、テキストを正確に読解できず、人文学の幅広い知識の修得も不十分である。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語(ことば)」の持つ力が一定程度理解できているため、一定程度テキストの読解ができ、幅広い人文学を学んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語(ことば)」の持つ力が深く理解できているため、テキストの正確な読解ができ、人文学の幅広い知識が身につけている。
	日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解を分かりやすく伝えるための方法を身につけている。	正確な日本語能力がなく、自らの意見を伝えることができない。	学科・専攻の教育理念に基づき、日本語能力を持ち、自らの意見をなんとか伝えることができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、正確な日本語能力を持ち、自らの意見を伝えることができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、正確な日本語能力を持ち、自らの意見をわかりやすく伝えることができる。
	外国語運用能力や豊かな教養を身につけている。	外国語運用能力をはじめとした教養の学修にまったく取り組めていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、外国語をはじめとした教養の学修に必ずしも積極的に取り組んでいない。	学科・専攻の教育理念に基づき、外国語をはじめとした教養の学修にある程度積極的に取り組んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、外国語をはじめとした教養の学修に積極的に取り組んでいる。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上	他者との相互理解を可能とするような対話能力を身につけている。	他者との相互理解を円滑に行う対話能力が身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を行う対話能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を行う対話能力が一定程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を円滑に行う対話能力が身につけている。
	自らが設定した課題について、探求、発見、追究、解決という一連のプロセスを達成する能力を多角的に身につけている。	課題の探求から解決にむけた能力がまったく身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力がある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力が十分身につけている。
	論理的思考力を培い、現代社会が問いかける問題に対して、多角的に思考・判断することができる。	現代社会が問いかける問題に論理的、かつ多角的な思考をもって、判断できない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会が問いかける問題に論理的、かつ多角的な思考をもって、判断することが不十分である。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会が問いかける問題に論理的、かつ多角的な思考をもって、ある程度判断できる。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会が問いかける問題に論理的、かつ多角的な思考をもって、十分判断できる能力がある。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	多様な価値観を認め、言語(ことば)の学修をはじめとした学びを通じて自己の認識を広げ、異なる価値観を受容することができる。	多様な価値観に対する理解がなく、共生の理念に対する理解がない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解と共生の理念が明確に理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解と共生の理念がある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解を持ち、共生の理念を体現できている。
	他者との交流や異なる価値の受容を通じて、自己を客観視し、他者と協働することができる。	他者との交流や協働することができない。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との交流や協働を通じた異なる価値の受容や自己を客観視することが不十分である。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との交流や協働を通じた異なる価値の受容や自己を客観視することがある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との交流や協働を通じた異なる価値の受容や自己を客観視することが十分身につけている。
	社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。	職業観や勤労観、持続可能な就業力が身につけていない。	職業観や勤労観、持続可能な就業力が必ずしも身につけていない。	職業観や勤労観、持続可能な就業力がある程度身につけている。	職業観や勤労観、持続可能な就業力が身につけている。

(3) 卒業論文ルーブリック

※卒業論文にかかわる学修進度の目安です。あくまで一例ですから、詳細は各学科・専攻の教員の指導に従ってください。

		1	2	3	4	5
先行研究		国内の先行研究を把握できていない。	国内の先行研究を把握しているが、整理して説明できない。	国内の先行研究を把握し、整理して説明できる。	国外の先行研究も把握しているが、整理して説明することができない。	国内外の先行研究を把握し、整理して説明できる。
問題設定		問題の設定が曖昧である。	ある程度明確な問題を設定しているが、適切な問題であるとはいえない。	ある程度、明確で適切な問題を設定している。	適切で明確な問題を設定しているが、独創性はない。	適切で明確な問題を設定しており、独創性がある。
資料	選択	適切ではない資料を使用しているか、資料を使用していない。	適切な単一の資料(翻訳)を使用している。	適切な単一の資料(原語)を使用している。	適切な複数の資料(翻訳)を使用している。	適切な複数の資料(原語)を使用している。
	読解	ほぼ全体を通して、資料を正しく読解できていない。	資料が正確に読解できている部分とできていない部分が半々である。	7割方読解できている。	若干の問題はあるが、ほぼ正確に資料を読解できている。	資料を正確に読解できている。
	分析	資料が適切に分析できていない。	概ね適切に分析できているが、説明が不十分である。	概ね適切に分析し、それを説明することができている。	資料を適切に分析できているが、説明が不十分である。	資料を正確に分析し、それを十分に説明できている。
考察		資料の分析に基づいておらず、論理的整合性にも欠ける。	概ね資料の分析に基づいているが、論理的整合性に欠ける。	概ね資料の分析に基づき、ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	資料の分析に基づき、ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	資料の分析に基づき、論理的整合性をもった考察を加えている。
表現	文章化	伝達したい内容を的確に文章化できていない。	伝達したい内容を、あまり的確に文章化できていない。	伝達したい内容を、7割方は的確に文章化できている。	伝達したい内容をほぼ的確に文章化できている。	伝達した内容を全く的確に文章化できている。
	誤字・脱字	誤字・脱字が非常に多い。	誤字・脱字がやや目立つ。	誤字・脱字が3、4箇所ある。	若干(1、2箇所)の誤字・脱字がある。	誤字・脱字が全くない。
基本的技術	典拠・典拠箇所の明示	典拠・典拠箇所が殆ど明示されていない。	典拠は示されているが、典拠箇所が明示されていない。	典拠・典拠箇所の明示が欠けている部分がある。	典拠・典拠箇所がほぼ明示されている。	典拠・典拠箇所が全て明示されている。
	参考文献表の作成	参考文献がリスト化されていない。	参考文献表に欠落・余分があり、書式も適切ではない。	適切な書式ではあるが、参考文献表に欠落・余分がある。	参考文献表に欠落・余分はないが、書式が適切ではない。	適切な書式で、欠落・余分なく参考文献表が作成されている。
	論文の書式	指定の書式に全く従っていない。	指定の書式にあまり従っていない。	指定の書式に7割方従っている。	指定の書式にほぼ従っている。	指定の書式に全て従っている。

大学院文学研究科・実践真宗学研究科

(1) 大学院

龍谷大学は、10の研究科を設置しています。

9専攻を擁する文学研究科(修士課程・博士後期課程)は、各分野のエキスパートである指導教員と、国内外に知られた豊富な蔵書があり、各自の専門分野の研究を深く究めることができます。

実践真宗学研究科(修士課程)は、複雑化・多様化する現代の問題に、実践的・具体的に臨む宗教者のあり方を学修し、社会的実践者にふさわしい高度な専門的素養の修得を目指します。

(2) 入学試験

※入学試験の実施時期等は、2023年度までの実績です。入学試験に関する詳細については、大宮学舎・文学部教務課(大学院窓口)へお尋ねください。

(1) 文学研究科（修士課程）

一定の学力基準を満たした卒業見込者を対象とする学内推薦入試（7月）に加え、外国語、専門科目、口述試験で実施する一般入試と社会人入試を秋期試験（9月）、春期試験（2月）の年2回実施しています。

(2) 実践真宗学研究科（修士課程）

一定の学力基準を満たした卒業見込者を対象とする学内推薦入試（7月）、グループ討論、レポート、専門科目、面接で実施する自己推薦入試（9月~11月）、外国語、専門科目、口述試験で実施する一般入試と社会人入試を2月に実施しています。

(3) 文学部生の大学院文学研究科開講科目の早期履修制度

本学文学部卒業年次生のうち、本学大学院文学研究科へ進学する者で、特に優秀で勉学意欲の旺盛な者に対する教育上の特例措置として、学士課程における修学に支障のない範囲で、本学大学院文学研究科科目の履修を認める制度です。対象科目、申請時期、単位認定等の詳細については、履修登録期間に文学部教務課掲示板等でお知らせします